

令和3（2021）年度 第2回 水工学委員会および幹事会

日 時：令和3年12月8日（水）17:30～19:30

場 所：オンライン（Zoom）

0. 立川委員長挨拶

≪ 報告事項 ≫

1. 令和3年度水工学委員会構成（幹事長） 資料1-1,2
2. 令和元年度水工学論文集編集作業（編集幹事長） 資料2
3. 部会・小委員会・関連委員会の活動報告及び活動計画
 - 部 会： 水文部会（鼎委員） 資料3-1
 - 河川部会（諏訪委員） 資料3-2
 - 基礎水理部会（田中規委員） 資料3-3
 - 環境水理部会（竹林委員） 資料3-4
 - 小委員会： 水害対策小委員会（大石委員） 資料3-5
 - 河川観測高度化小委員会（椿委員） 資料3-6
 - グローバル気候変動適応研究推進小委員会（中山委員） 資料3-7
 - 河道管理小委員会（田中規委員） 資料3-8
 - 水理公式集例題集編集小委員会（泉委員） 資料3-9
 - オンライン小委員会（入江委員） 資料3-10
 - 関連委員会： CommonMP（風間委員） 資料3-11
 - 土木学会論文集編集委員会（風間委員，内田委員） 資料3-12
 - ISO/TC113小委員会（深見ISO/TC113委員長） 資料3-13
 - インフラメンテナンス関係委員会（戸田委員） 資料3-14
 - 海岸工学委員会（入江委員） 資料3-15
 - 沿岸域気候変動適応研究会（小林委員） 資料3-16
 - インフラ体力委員会（二瓶委員） 資料3-17
 - 流域管理と地域計画の連携（立川委員長） 資料3-18
 - 河川懇談会（中北顧問） 資料3-19
4. 令和3年度水工学に関する夏期研修会（高知大学，田村委員） 資料4
5. 水シンポジウム2021in群馬（二瓶委員） 資料5
6. 令和3年度の年間スケジュール（幹事長） 資料6
7. JSCE-CCES Joint Symposium（幹事長） 資料7
8. その他

流域管理と地域計画の連携, 水理公式集編集小委員会, 減災・防災委員会, 地球環境, 環境システム, 出版委員会, IAHR Japan Chapter

≪協議事項≫

- | | |
|---|-------|
| 1. 令和4年度第67回水工学論文集編集作業等（編集幹事長） | 協議資料1 |
| 2. 令和4年度水工学に関する夏期研修会（東京，海岸工学委員会担当，小田委員） | 協議資料2 |
| 3. 令和4年度水シンポジウム（山形県，風間委員） | 協議資料3 |
| 4. 令和4年度第67回水工学講演会の開催（愛媛，森脇委員） | |
| 4. 令和5年度第68回水工学講演会の開催（大阪，入江委員） | 協議資料4 |
| 5. 令和3年度水工学委員会の予算（幹事長） | 協議資料5 |
| 6. その他 | |

※委員会終了後，お時間が許す方は雑談などできる時間帯を設けたいと思います。食事やアルコールなど頂きながら気楽にご参加ください。

注意事項：

- ・ ZOOM の録音録画は絶対にしないでください。
- ・ ZOOM 上では，氏名と所属を表示ください。
- ・ 通常はカメラオフ，マイクミュートとして，発言されるときにはカメラ，マイクオンにしてください。
- ・ 資料は矢野が画面に共有しますので，説明者におかれましては表示頁の指示をお願いします。

当日のアクセス：

Zoom ミーティングに参加する

<https://zoom.us/j/96389591466?pwd=Z3E1Mk9PM3NFYjZ5ZHNqdS9xdTJJQT09>

ミーティング ID: 963 8959 1466

パスコード: 646833

顧問

中川 一	京大防災研
寶 馨	京大防災研
道奥 康治	法政大学
中北 英一	京大防災研
清水 康行	北海道大学

委員

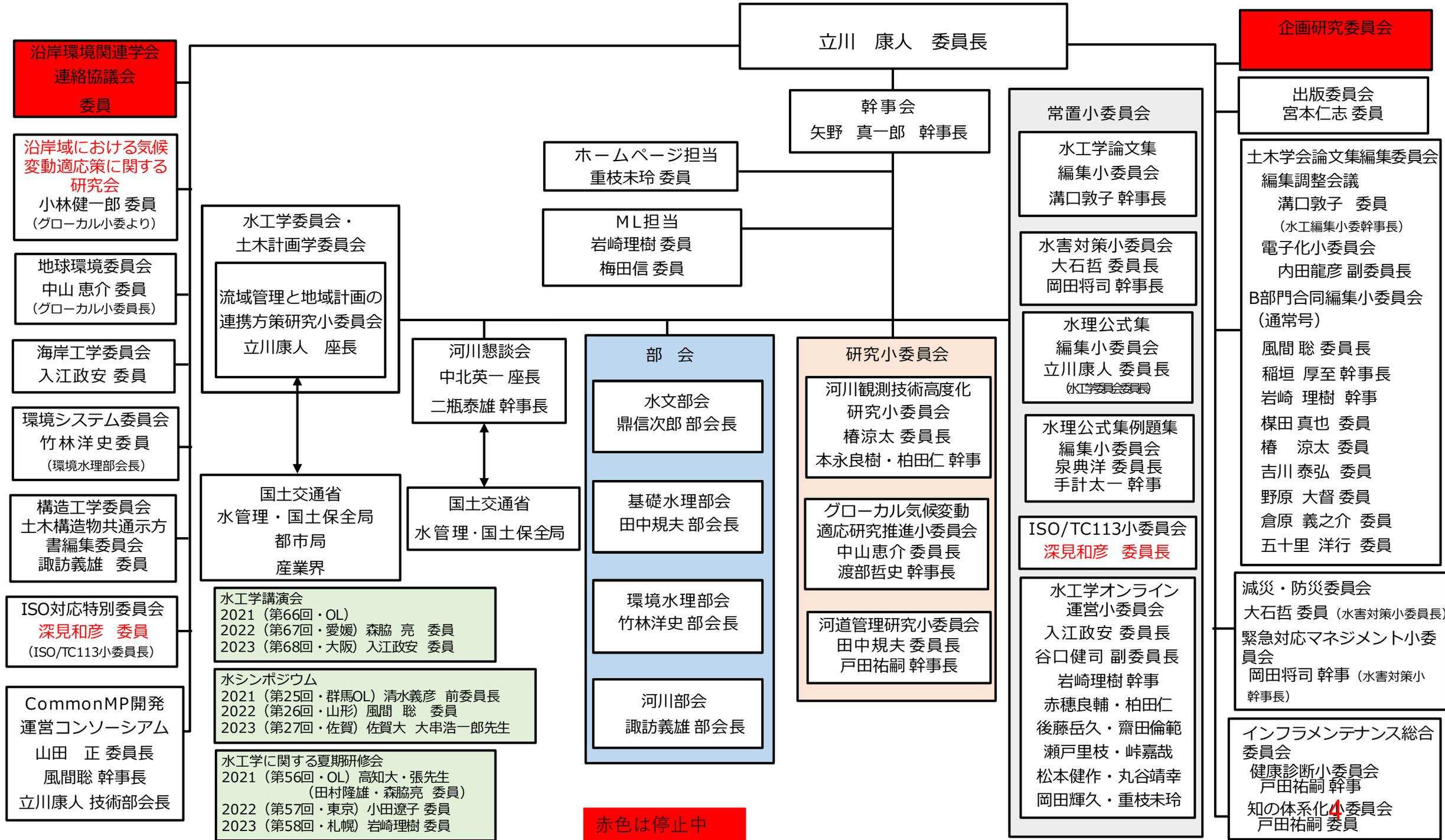
NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事
1	立川 康人	京大	委員長, 流域管理と地域計画の連携方策研究委員会 座長, COMMON MP技術部部会長	専門1	
2	矢野 真一郎	九州大	幹事長	専門2	
3	溝口 敦子	名城大	編集幹事長	専門3	
4	二瓶 泰雄	理科大	前幹事長/河川懇談会幹事長/インフラ体力診断小委 員会幹事	専門4	○
5	鼎 信次郎	東工大	水文部会部会長/前編集幹事長	専門5	○
6	田中 規夫	埼玉大	基礎水理部会部会長/河道管理研究小委員会委員長/ IAHR Japan chapter副支部長	専門6	
7	諏訪 義雄	土木研究所	河川部会会長(河川以後)	関東8	○
8	竹林 洋史	京大防災研	環境水理部会部会長	専門7	○
9	泉 典洋	北大	水理公式集例題集編集小委員会委員長	専門8	
10	大石 哲	神戸大	水害対策小委員会委員長	専門8	○
11	樺 涼太	名古屋大	河川観測高度化研究小委員会委員長	専門10	○
12	中山 恵介	神戸大	グローバル小委員会委員長	関西1	○
13	手計 太一	中央大	2021年水工学講演会担当	専門11	
14	森脇 亮	愛媛大	2022年水工学講演会担当/2021夏期研修会担当	専門12	
15	宮本 仁志	芝浦工大	出版委員会委員	関東1	
16	内田 龍彦	広島大	土木学会論文集電子化小委員会副委員長, 水工オン ラインWG	専門13	○
17	風間 聡	東北大	COMMON MP幹事長/水シンポ2022山形担当/B編集小委 員会	専門14	○
18	田中 賢治	京大	水シンポ2021担当	専門15	
19	山上 踏生	京大	全国大会(関西)幹事	専門16	
20	佐山 敬洋	京大防災研	水工オンラインWG・全国大会	専門17	○
21	山田 朋人	北大		北海道1	
22	岩崎 理樹	北大	水工オンライン小委員会, 水工ML担当	北海道2	○
23	梅田 信	日本大学工学部	水工ML担当	東北1	
24	川越 清樹	福島大	水シンポ2022山形担当	東北2	○
25	芳村 圭	東大	水シンポ2021群馬担当	関東2	○

NO.	氏名	所属	役職, 担当	種類	幹事
26	知花 武佳	東大		関東3	
27	小田 慎子	千葉工業大		関東4	○
28	平林 由希子	芝浦工業大		関東5	
29	田端 幸輔	国土技術政策総合 研究所	地盤工学委員会 堤防研究小委員会委員会 委員	関東6	
30	朝田 将	国交省・河川計画 課河川計画調整室 長		関東7	
31	柿沼 大貴	土木研究所 (ICARM)	ISO担当	関東9	
32	佐藤 隆宏	電中研		関東10	
33	陰山 健太郎	日本工営	日本工営(株)コンサルタント事業統括本部 河川水資源事業部 副事業部長	関東11	
34	荒木 千博	建設技術研究所	(株)建設技術研究所 東京本社河川部 部長	関東12	
35	堀合 孝博	パシフィックコンサル タンツ	パシフィックコンサルタンツ(株) 国土基盤事業本部 河川部 担当部長	関東13	
36	大澤 範一	東京建設コンサル タント	株式会社 東京建設コンサルタント 東京本社河川計画本部 河 川計画部 部長代理	関東14	
37	鈴木 良徳	エイト日本技術開 発	株式会社エイト日本技術開発 国土インフラ事業部 河川・港湾 部門 技師長	関東15	
38	戸田 祐嗣	名古屋大	河道管理研究小委員会幹事長, インフラメンテナ ンス総合委員会・健康診断小委員会・幹事, インフラ メンテナンス総合委員会・知の体系化小委員会・委 員	中部1	○
39	谷口 健司	金沢大		中部2	
40	武田 誠	中部大		中部3	
41	山口 弘誠	京大防災研		関西2	
42	入江 政安	大阪大	海岸工学委員会交換委員(継続して承済み), 水工オン ラインWG	関西3	○
43	市川 温	京都大		関西4	
44	川池 健司	京大防災研	IAHR Japan chapter幹事長	関西5	○
45	小林 健一 郎	神戸大	沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委 員会/IAHR のTechnical Committee on Climate change	関西6	
46	赤松 良久	山口大		中国1	
47	三輪 浩	鳥取大		中国2	○
48	田村 隆雄	徳島大学	2021年度 夏季研修会担当/2022年度 水工学講演会担 当	四国1	○
49	杉原 裕司	九州大		西部1	○
50	重校 未玲	九工大	HP担当	西部2	

オブザーバー
(定員外)

岡田 将司	高知高専	水害対策小委員会幹事長→1年後交代
山城 賢	九州大	海岸工学委員会からの交換委員(定員外)
深見 和彦	河川情報センター	ISO担当

委員の交代：35堀合委員
オブザーバー追加：深見様



論文集編集小委員会報告

1. 投稿・採択状況

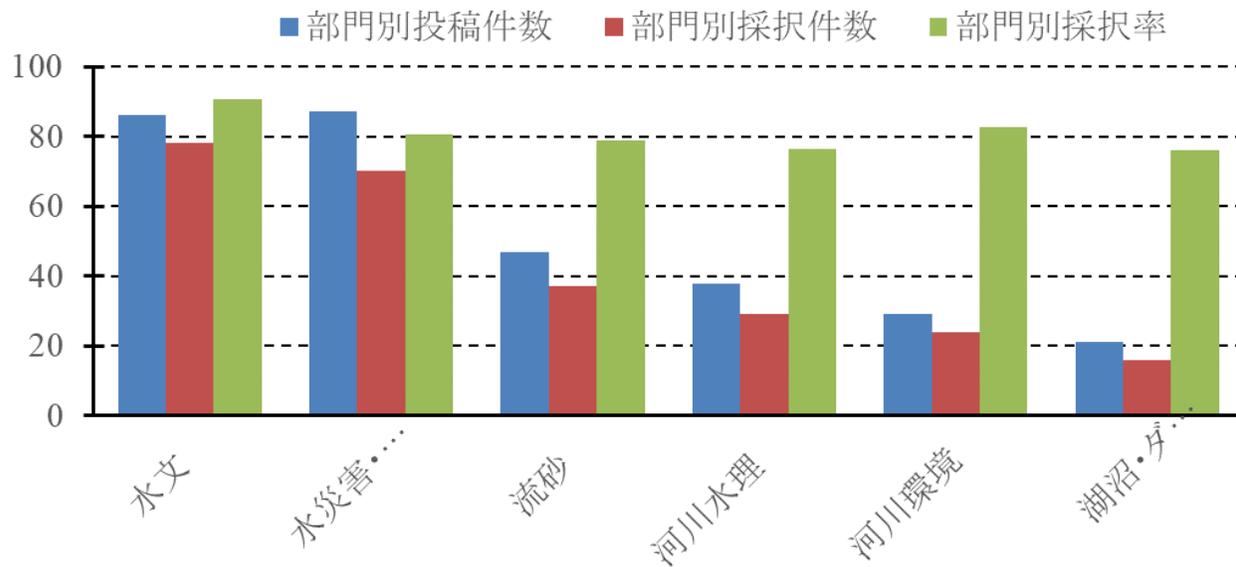
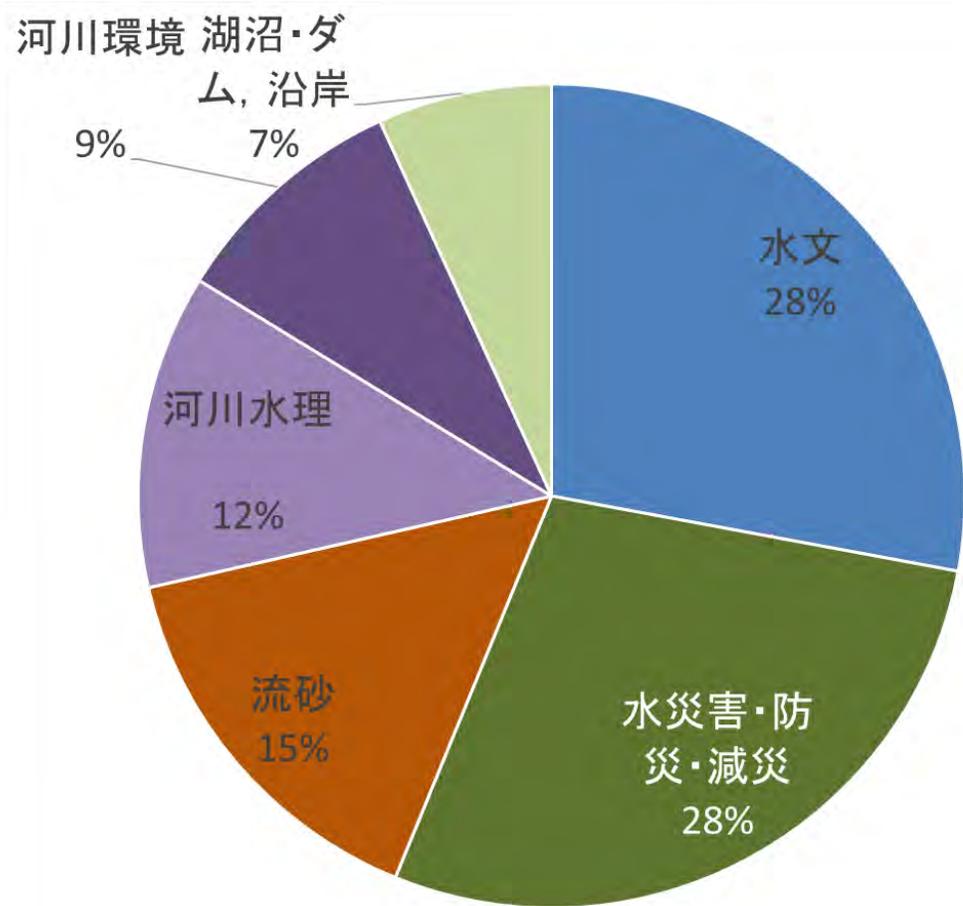
巻	年	投稿数	採択数	採択率
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	326	245	75.2
62	2018	344	258	75.0
63	2018	318	257	80.8
64	2019	315	247	78.4
65	2020	317	248	78.2
66	2021	308	254	82.5

発表253件（1件取り消し）＋通常号からの発表 一般5件＋企画3件

投稿・採択 件数

	投稿時キーワード	2021	部門別投稿件数	採択件数	部門別採択件数
水文	水文気象プロセス	8	86	8	78
	生態水文	0		0	
	気候変動とリスク評価	35		31	
	降水	9		9	
	流出解析	16		16	
	水文統計／水文情報	7		7	
	雪氷水文	3		3	
	地下水・浸透	8		4	
水災害・ 防災・減 災	流域管理・洪水リスク管理	25	87	23	70
	水災害・防災・減災	52		40	
	水害・氾濫の水理	10		7	
流砂	流域土砂動態	7	47	6	37
	流砂	16		13	
	河床形態・流路形態	6		4	
	河床変動	18		14	
河川水理	管路・局所流	4	38	3	29
	開水路の水理	15		13	
	密度流・噴流・拡散	0		0	
	水理現象の数値解析	7		5	
	流体力・流体振動・波動	2		1	
	観測技術	10		7	
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	8	29	7	24
	流域の流出負荷・河川の水質	1		1	
	水生生物・魚道	13		9	
	河道の植生	3		3	
	河道の物理環境	4		4	
湖沼・ダ ム、沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	10	21	8	16
	沿岸・河口域の水理と環境	8		5	
	津波	3		3	

採択率等



水工学論文集の公開方法変更を受けて

CONFITを導入し，WEB配信となった．

- ・プログラム編成は重複チェックが入るため楽になった（？）．
ただし，通常号の論文を入れるのは若干の手間あり．論文掲載ができないので悩ましい．
- ・業者が変更となったため，ヘッダーフッターなど論文集体裁などの調整が入り少々UPまで時間がかかった．
- ・協賛企業の表示方法が変わったため，関係者にお手数をおかけした．
- ・フォーマットチェックを業者に依頼．かなりの論文で体裁にミスがあり修正が入った．
- ・J-stageにおける掲載を早くした（今年から翌年1月までのUPを目標）

Best International Paper Award

受賞者: Hwayeon KIM (Kyoto University)

受賞論文: ADVANCES IN THE QUANTITATIVE RISK
PREDICTION FOR IMPROVING THE ACCURACY ON
THE GUERRILLA HEAVY RAINFALL

共著者: Eiichi NAKAKITA (Kyoto University)

表彰スケジュール変更の提案？

論文賞，奨励賞は一年後の発表で審査～決定～発表が間延び，
一方でBest International Paper Awardは講演会での発表で審査～発表までのスケジュールがタイト

3賞とも発表を年度内にそろえる。

(集計を次の執行部に引き継がないで済む＋早期発表は受賞者にとってもメリットが大きい)

(案1) 審査は，採択が決まり次第行い，講演会開催時に行う委員会での審議を経て懇親会にて発表（賞状は後日発送）。

※オンライン講演会で，受賞講演をしてもらう。

⇒ 内規を次回審議して改定する必要あり。

・ 3月半ば以降で開く臨時委員会で審議

水文部会構成

- 部会長
 - 田中賢治先生(京都大学)→鼎
- 副部会長
 - 鼎(東京工業大学)→市川先生(京都大学)
- 河川部会連携委員
 - 吳先生(富山県立大学)
 - 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
 -

水文部会2021年度活動予定

- 水文研究集会（今年度は難しそう）
- 水文部会（後日、年度内開催予定）
- 水シンポジウム2021in群馬（無事、終了）
企画部会：田中賢治、平林由希子、芳村圭
（当日は田中先生→鼎）
第1分科会 テーマ：防災・減災（治水・利水）

河川部会 33名(民9・学13・官11)

2021.11時点

部会長	諏訪 義雄	(国研)土木研究所	官
副部会長	内田 龍彦	広島大学大学院先進理工系科学研究科	学
副部会長	堀江 克也	いであ(株)	民
	青野 正志	国土交通省 水管理・国土保全局 河川計画課	官
	秋葉 雅章	(一財)河川情報センター	官
	碓 正敬	(株)東京建設コンサルタント	民
	磯部 良太	(公財)河川財団	官
	岩見 収二	(株)建設技術研究所	民
	太田 一行	(一財)電力中央研究所 地球工学研究所	民
	岡安 徹也	(一財)国土技術研究センター	官
	尾花 まき子	名古屋大学大学院 工学研究科	学
	川池 健司	京都大学 防災研究所 流域災害研究センター	学
	呉 修一	富山県立大学 工学部	学
	黒澤 祥一	三井共同建設コンサルタント(株)	民
	信田 智	国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課	官
	新清 晃	応用地質(株)	民
	田端 幸輔	国土交通省国土技術政策	学
	知花 武佳	東京大学大学院 工学系研究科	学
	椿 涼太	名古屋大学大学院 工学研究科	学
	仲吉 信人	東京理科大学 理工学部	学
	西口 亮太	日本工営(株)	民
	鳩野 美佐子	広島大学大学院先進理工系科学研究科	学
	原田 守啓	岐阜大学 流域圏科学研究センター	学
	福島 雅紀	国土交通省 国土技術政策総合研究所	官
	藤田 士郎	独立行政法人水資源機構	官
	本田 隆英	大成建設(株)	民
	松田 浩一	パシフィックコンサルタンツ(株)	民
	松本 健作	静岡理工科大学理工学部土木工学科	学
	溝口 敦子	名城大学 理工学部, 東北大学災害科学国際研究所	学
	安井 辰弥	国土交通省 水管理・国土保全局 治水課	官
	吉川 泰弘	北見工業大学 工学部	学
	吉田 邦伸	(公財)リバーフロント研究所	14官
	渡邊 茂	(一財)水源地環境センター	官

2021年度・河川技術に関するシンポジウム

—新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術に関するシンポジウム—

「河川技術論文集第27巻」の発行

- 開催日:2021年6月10日・11日 開催方法:ConfitのWEBサイトを活用したオンライン
- 参加者数:702名
- ●オーガナイズドセッション(OS)
- OS1:「氾濫による被害を軽減するための技術開発とその取り組み」
- オーガナイザー:川池健司,黒澤祥一,新清晃,田端幸輔,福島雅紀,松田浩一,松本健作,目黒嗣樹
- OS2:「流域における河道の役割と河道管理に資する河川技術」
- オーガナイザー:原田守啓,青野正志,磯部良太,堀江克也,溝口敦子
- OS3:「流域治水の理念とそれに向けた研究・技術開発」(議論の総括)
- オーガナイザー:知花武佳,青野正志,内田龍彦,大谷悟,田村浩敏,吉田邦伸
- 報告は<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/activities>参照
- ●2021年 河川技術に関するシンポジウム 優秀発表者賞 受賞者
- PS1(39編):近者敦彦 兵庫県全域リアルタイム氾濫予測システムの構築
(三井共同建設コンサルタント株式会社 河川・砂防事業部)
- PS2(45編):原田守啓 幅広い流況下における砂州動態を記述するための流量指標
(岐阜大学 流域圏科学研究センター)
- PS3(34編):中村大介 千葉県一宮川流域における流域治水に関する取組と展開に関する考察
(千葉県 県土整備部 河川整備課)
- ●河川技術論文集第27巻(論文・総説・報告合わせて118編)を発刊。j-stage公開中。
- ●j-stageでの論文集公開は順次巻を遡って掲載予定

2022年度シンポジウム・河川技術論文集 第28巻投稿等について

●シンポジウム概要

- ・シンポジウム開催日：2022年6月16日・17日
- ・OS場所：東京大学弥生講堂・Zoomオンライン併用（予定）
- ・PS・ディスカッション：シンポ当日は弥生講堂・事前はWeb上（予定）
- ・会告（12/1～）URL：<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic01/>

●論文集等スケジュール

- ・要旨応募（**1/7締切**） ←例年より早まっています（編集改善のため）
- ・本論文投稿（**3/25締切**） ←例年より早まっています（ " ）
- ・最終原稿up（5/30～6/2）
- ・ポスターup（6/6～6/9）・**ディスカッション（6/6～6/17）** ←意見交換促す試み

●留意事項

- ・**部会外査読を導入** ←編集改善のため・依頼された方はご協力お願いします
- ・採択判定において投稿要領の「投稿条件」に適合した原稿であることの確認を徹底します ←要旨採択率は下がる可能性高い

2022河川シンポジウム・河川技術論文集第28巻 特定テーマ

- 特定テーマ1：特定課題1：流域治水を支える現状の技術と課題～中小河川の整備と役割～
- オーガナイザー：内田龍彦・安井辰弥・知花武佳・川池健司・岩見収二
- 特定テーマ2：河川管理のDXに関する研究・技術開発
- オーガナイザー：堀江克也・青野正志・椿涼太・田端幸輔・仲吉信人
- 特定テーマ3：これからの社会における河道の役割と河道設計・河道管理に資する河川技術
- オーガナイザー：原田守啓・溝口敦子・福島雅紀

基礎水理部会活動報告

2021年度第2回土木学会水工学委員会 2021年12月8日 オンライン会議

基礎水理部会WebサイトURL

<http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/>

[部会長]

田中 規夫(埼玉大学)

[副部会長]

高橋 正行(日本大学)

[幹事]

張 浩(熊本大学)

R3年度の主な活動

- 部会委員会の開催（第1回6月3日、第2回12月10日予定）
- 第13回水工学オンライン連続講演会（11月18日、基礎水理部会担当）
- 2021年度基礎水理シンポジウム開催案
- WG活動報告

水に関する様々な現象は一見無秩序で偶然の出来事に見えるかもしれませんが、その奥に精緻な力学という物理の世界が潜んでいるとしたら、その世界を覗いてみたいと思いませんか？

水に関連する力学を研究する学問を水理学と呼びます。

水環境、水災害、水辺風景、水は常に身近な存在であり、私たちの生活に深く関わっています。水の問題を適切に解決するためには、現象の背後に潜む水の力学の法則を解き明かす必要があります。私たち基礎水理部会では、水の力学に関する学問の進歩と、現代の多様な水の問題の解決を目指した活動を行っています。

基礎水理部会 委員構成 (50音順, 敬称略) 2021.12.01現在

[部会長] 田中 規夫 (埼玉大学) [副部会長] 高橋 正行 (日本大学) [幹事] 張 浩 (熊本大学)
[委員]

赤穂 良輔	岡山大学	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻
旭 一岳	RiverLink	
井上 卓也	広島大学	大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム
岩崎 理樹	北海道大学	工学研究院 土木工学部門
鵜崎 賢一	群馬大学	理工学府 環境創生部門
内田 龍彦	広島大学	大学院先進理工系科学研究科 社会基盤環境工学プログラム
太田 一行	電力中央研究所	
岡本 隆明	京都大学	大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
鬼束 幸樹	九州工業大学	工学部 建設社会工学科
音田 慎一郎	京都大学	工学研究科 都市社会工学専攻
門田 章宏	愛媛大学	工学研究科 生産環境工学専攻
山上 路生	京都大学	工学研究科 社会基盤工学専攻
高岡 広樹	八千代エンジニアリング	九州支店
椿 涼太	名古屋大学	大学院工学研究科 土木工学専攻
鳥生 大祐	京都大学	学術情報メディアセンター
内藤 健介	ICHARM	
永野 博之	群馬高専	環境都市工学科
原田 守啓	岐阜大学	流域圏科学研究センター
久末 信幸	関西電力	技術研究所
平松 裕基	土木研究所	寒地土木研究所
溝口 敦子	名城大学	理工学部 社会基盤デザイン工学科
山野井 一輝	京都大学	防災研究所
横嶋 哲	静岡大学	学術院工学領域 数理システム工学系列
吉田 圭介	岡山大学	環境生命科学研究科

基礎水理部会 委員構成 (50音順, 敬称略) 2021.12.01現在(つづき)

[アドバイザー]

朝位 孝二	山口大学	大学院創成科学研究科
泉 典洋	北海道大学	工学研究科 環境フィールド工学専攻
大本 照憲	熊本大学	くまもと水循環・減災研究教育センター
神田 佳一	明石工業高専	都市システム工学科
木村 一郎	富山大学	都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科
里深 好文	立命館大学	理工学部 環境都市工学科
杉原 裕司	九州大学	大学院総合理工学研究院 環境理工学部門
関根 正人	早稲田大学	創造理工学部 社会環境工学科
高濱 淳一郎	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
富永 晃宏	名古屋工業大学	工学研究科 社会工学専攻
藤田 一郎	一般財団法人 建設工学研究所	
前野 詩朗	岡山大学	環境生命科学研究科

第13回水工学オンライン連続講演会 (基礎水理部会担当)

2021年11月18日17:00-19:00

講師

大本 照憲 先生 (熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 特任教授)

題目

「最近の九州における河川災害の実態と近世の治水について」

内容

最近の10年間の九州では平成24年7月九州北部豪雨、平成29年7月九州北部豪雨、令和元年佐賀豪雨災害、令和2年7月九州豪雨災害、この間には平成28年4月16日熊本地震が発生した。寺田寅彦の随筆「日本人の自然観」の中に、「昔の日本人(明治以前)が集落を作り架構を施すにはまず地の相することを知っていた。西洋科学を輸入した現代(明治以降)日本人は西洋と日本とで自然の環境に著しい相違のあることを無視し、従って伝来の相地の学を蔑視して建てるべからざるところに人工を建設した。・・・建造物が実に意気地もなく壊滅する、それを眼前に見ながら自己の錯誤を悟らないでいる、」とあり、寅彦には近代に較べ近世の治水に合理性があることを直観した様に思える。本講演では、上記河川災害の特徴および流域治水のヒントにもなる九州で実践された近世の治水、特に加藤清正の川普請について発表する。

Zoom: 視聴人数46名、Youtube: 最大同時接続数146名

基礎水理シンポジウム2021

「河床変動の水理—構造物周辺の被災メカニズム解明とその対策に向けて—」

主催：公益社団法人 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会

日時：2022年3月16日（水曜日） 10:30-17:25

会場：オンライン開催を基本とするが、申し込み方法などの詳細は12月10日に決定予定。

CPD単位数：5.0単位（申請中）

参加料：無料

プログラム：

10:30-10:40（開会挨拶） 田中規夫（埼玉大学教授，部会長）

10:40-11:20 講演1 岩崎 理樹（北海道大学 准教授）

題目 河床・流路変動モデルによる河道被災リスク解析：現地適用への現状と課題（仮）

11:25-12:05 講演2 内田 龍彦（広島大学 准教授）

題目：河岸侵食・護岸被害の危険度評価法とこれを用いた河川整備効果の定量評価の試み（仮）
（休憩）

13:15-14:15 基調講演 泉 典洋（北海道大学 教授）

題目 河床・流路変動研究における現状の課題と今後の方向性（仮）

14:20-15:00 特別講演 諏訪 義雄（国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ長）

題目 河川構造物の洪水に対する応答特性と対策への視点（仮）

15:15-15:55 講演3 重枝 未玲（九州工業大学 准教授）

題目 九州での豪雨災害による河道の変動と河川構造物の被災等について（仮）

16:00-16:40 講演4 川村 里実（寒地土木研究所 主任研究員）

題目 急流河川における堤防被災：減災に向けた取り組みと課題（仮）

16:40-17:15 全体討論 河床変動研究における水理学的課題について

司会：田中規夫（埼玉大学教授，部会長）

パネリスト：講演者

17:15-17:25（閉会挨拶）高橋正行（日本大学教授，副部会長）

お問い合わせ先：

土木学会 研究事業課（基礎水理シンポジウム担当 林） Tel: 03-3355-3559 Email: j-hayashi@jsce.or.jp

基礎水理部会 幹事（熊本大学 張） Email: hzhang@kumamoto-u.ac.jp

基礎水理部会ワーキング・グループ活動報告

流木力学に関するWG(代表:木村 一郎)

流砂・河床変動に関する若手WG(代表:音田 慎一郎)

生態水理に関するWG(代表:田中 規夫)

河川構造物等に作用する流体力と流れに関するWG
(代表:田中 規夫)

○ 数値解析支援ツールに関するWG(代表:旭 一岳)

数値解析支援ツールに関するWG

代表：旭一岳

1. WGの目的：

数値計算支援ツールが、前処理、後処理、そしてツール(プラットフォーム)に分類できることを踏まえ、主に以下について意見交換し水工学委員会をはじめ、社会に情報発信していく。

- 前処理：測量・観測技術の進化(時空間密度の精度向上など)に柔軟、迅速に対応していくための方策、技術、ツール等
- 後処理：従来の可視化手法に比べ、大容量化するデータを情報に変換するための方策、技術、ツール等
- 従来、上記のようなことを個々に取り組んでいたが、それらを共有知化していくための方策、技術、ツール(プラットフォーム)等

2. 2021-2022年度 第1回数値解析支援ツールに関するWG:

主旨: 現状把握とテーマ設定

基礎水理部会のメンバーをはじめ水工学に係る技術者が、数値解析のために実施する前処理や後処理、および、その際利用するツール(プラットフォーム)について、現状と課題を共有することを目的とする

日程: 2022年3月9日～15日のうち2日(調整中)

開催場所: オンライン + 広島大学周辺

内容: (調整中)

1日目

13:30 開始、オリエンテーション

午後 前処理

2日目

午前 後処理

午後 ツール・プラットフォーム

3日目

午前 今後の課題整理

12:00 解散

環境水理部会活動報告・活動予定

部会長 竹林洋史(京都大学)

2021年度環境水理部会研究集会

日時:2022年1月13日 オンライン

2021年度第2回環境水理部会

日時:2022年1月13日12:00~13:00 オンライン

WG活動

沿岸海洋環境WG(主査:齋田倫範(鹿児島大学))

- ・年度内にキックオフミーティングを開催予定, 沿岸海洋環境に関する課題の共有・議論のための会議やワークショップを開催

火山麓河川水系WG(主査:田代喬(名古屋大学))

- ・御嶽山麓・玉滝川水系見学会実施(8月10日, 11名参加), 今後, 他地域の現地見学会などを通じて, WG内で情報・意見交換を進めていく

流砂・植生動的マネジメントWG(主査:竹林洋史(京都大学))

- ・実現可能性の高い植生管理方法に関するオンラインワークショップを開催予定

閉鎖性水域WG(主査:新谷哲也(東京都立大学))

- ・継続課題の再検討, 新規課題の創出, オンラインワークショップ(2021年12月予定), 現地見学会(2022年5月頃予定)

温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG(主査:赤松良久(山口大学))

- ・WGの開催(8月5日, 講演者:上原様, 赤松), プロジェクトの計画

水害対策小委員会

水工学委員会における水害調査活動の円滑化および水害研究の更なる発展のための活動を行う小委員会

【活動内容】

- ・水害発生時に、水工学委員会が速やかに調査団を組織するためのサポート、調査団員公募のサポート、調査費獲得のためのサポート等をする。
- ・水害発生時に、他部門及び他学会との合同調査団の結成や河川管理者（行政機関）との窓口となる。
- ・水害発生時の水工学委員会としての対応・調査マニュアルを作成する。
- ・自然災害研究協議会と協力し、河川災害シンポジウムを企画・運営する。
- ・消防及びレスキューと情報交換を行い、水工学知見に基づいたレスキューマニュアルの改善やレスキュー技術の向上に努める。
- ・国土交通省及び地方自治体の水害対策部署と情報交換及び勉強会を行い、水防技術の向上に努める。
- ・水工学委員会に講演依頼がある水害に関する講演及び教育活動の窓口となる

2021年度 小委員会 メンバー

委員		
・小委員会委員長	大石哲	神戸大学
・幹事（各支部から1名）	川村里実	寒地土木研究所
	川越清樹	福島大学
	大槻順朗	山梨大学
	田代 喬	名古屋大学
	佐山敬洋	京都大学
（幹事長兼務）	岡田将治	高知工業高等専門学校
	赤松良久	山口大学
	重枝未玲	九州工業大学
・国土交通省本省	田中克直	国交省 水管理・国土保全局防災課災害対策室長
・国の研究所	宮本守	ICHARM
	徳元真一	国総研 河川研究部 河川構造物管理研究官
・コンサルタント	堀合孝博	パシフィックコンサルタンツ(株)
	中村謙一	(株)建設技術研究所
	中村明彦	アジア航測(株)
・財団	徳永良雄	一般社団法人 国際建設技術協会
・監事	堀智晴	京都大学
・監事	竹林洋史	京都大学
・相談役	風間 聡	東北大学
・相談役	田中茂信	京都大学
アドバイザー		
・各支部調査団組織責任者 （各支部から1名）	泉典洋	北海道大学
	田中仁	東北大学
	清水義彦	群馬大学
	富永晃宏	名古屋工業大学
	角 哲也	京都大学
	中野晋	徳島大学
	前野詩朗	岡山大学
	矢野真一郎	九州大学
オブザーバー		
・消防	上村昇	消防庁国民保護・防災部
	木下修	東京消防庁警防部特殊災害課
・レスキュー	佐藤孝洋	スペシャルレスキューサービスジャパン(株)
・コンサルタント	菊地博文	(株)ドーコン
	本橋 健	(株)日水コン
	眞間修一	八千代エンジニアリング(株)
	富田邦裕	(株)建設環境研究所
	松田寛志	日本工営(株)
	野田敦夫	(株)パスコ
・その他の災害・防災関連組織	神谷大介	琉球大学島嶼防災研究センター

2021年度の活動

- 2021年7月: 2021年度第一回水害対策小委員会開催
- 2021年7月: [令和3年7月静岡県東部豪雨災害調査団の結成・活動のサポート](#)
- 2021年9月: 第1回意見交換会 ZOOM
- 2021年10月: 河川基金申請
- 2021年11月: 現地調査および第2回意見交換会 Hybrid
- 2022年2月: [河川災害シンポジウムの開催](#)
日時:2月9日(水) 13時~16時(予定)
場所:神戸大学先端融合研究環統合研究拠点コンベンションホール
実施方法: 対面形式およびウェビナーによるハイブリッド開催

2022年度の活動予定

- 国内・海外の水害調査団結成のサポート
- 水害対策小委員会HPの充実
- 消防連携WG
- 災害写真データベースWG

2022年6月: 2022年度第一回小委員会開催

2023年2月: 河川災害に関するシンポジウムの実施
2022年度第二回小委員会開催

委員会構成

名前	所属	委員	オブザーバー	(備考)
青野正志	国土交通省	*		
井口真生子	(株)ハイドロ総合技術研究所		*	
井上和哉	(株)北開水工コンサルタント		*	
井上拓也	(株)水文環境		*	
上田英滋	三菱電機(株)		*	
大森嘉郎	中電技術コンサルタント(株)		*	
岡田将治	高知工業高等専門学校	*		
柏田 仁	東京理科大学	*		幹事
勝間田 純一郎	(株)東建エンジニアリング		*	
橘田隆史	(株)ハイドロシステム	*		
小林範之	(株)ラグロフ設計工房		*	
平 謙二	三菱電機エンジニアリング(株)		*	
田方俊輔	日本工営(株)		*	
墳原 学	(株)YDKテクノロジーズ	*		
椿 涼太	名古屋大学	*		小委員長
出口 恭	(株)ニュージェック		*	
手計太一	中央大学	*		
二瓶泰雄	東京理科大学		*	
橋場 雅弘	(株)福田水文センター	*		
樋口敬芳	パシフィックコンサルタンツ(株)		*	
藤田一郎	(一財)建設工学研究所		*	
望月優生	いであ(株)		*	
本永良樹	(一財)河川情報センター	*		幹事
安田浩保	新潟大学		*	
萬矢敦啓	土木研究所		*	
渡邊明英	(株)東京建設コンサルタント	*		

R3年度～の主な活動

- オンライン勉強会を8/23に開催した。10件の話題提供があり、200名の参加登録があった。
- 観測(6月に北海道・札内川フラッシュ放流にて実施)
- オンライン論文誌(河川観測の新時代/ New Waves in Hydrometry)を発行中
 - 最初の報告が採択済み
 - J-STAGE DATAの申請中
 - 過去の合同観測会の報告を検討中

河川観測 の新時代

New Waves in Hydrometry

- <https://committees.jsce.or.jp/hydraulic06/node/17>
- 河川観測の新時代は、水文過程や河川環境の計測に携わる技術者向けの雑誌です。
- 水文過程は水と物質(溶存物質、土砂、流木等)を含み、河川環境には、水面下・水面上の地形や地表・地表下の特性を対象とします。
- 省コスト手法, 観測手順や装置のセットアップについての詳細な記述, 考察を添えた失敗事例報告についても本雑誌では積極的に受け入れます。
- 投稿や編集部への問い合わせについては, hydrometry@ml-jsce.jp

構成

委員長	中山恵介(神戸大学)
幹事長	渡部哲史(京都大学)
顧問	中北英一(京都大学)
顧問	矢野真一郎(九州大学)
幹事	10名
委員	18名
オブザーバー	2名

R3年度の主な活動

- 9月9日：土木学会全国大会共通セッション「気候変動への適応と緩和」
- 12月10日：アゲールシンポジウム「治水政策の転換点の先にある水工学研究 ～気候変動適応研究の最前線から～」
- ～現在：気候変動を考慮した研究関連図の作成と関連図アンケートの実施

素因・誘因

地球温暖化
 気温上昇

海面上昇

台風強大化

降雨パターン変化（頻度・ピーク・継続時間）

豪雨/小雨

豪雪

海水温上昇

日射量・日照時間変化

社会環境変化
 人口減少・少子高齢化

担い手不足

インフラ維持・更新・余剰ストック

地方衰退

国力低下

パンデミック

食生活変化・水産業衰退

流域圏

水文

場の変化

土砂生産量増加
 土砂凍結・融解
 土地利用変化
 植生環境変化
 森林衰退
 耕作放棄地
 ため池
 ダム堆砂
 水田転換畑
 地温上昇
 有機物・栄養塩供給

水資源

水収支変化
 河川流量増大/減少
 地下浸透量
 地下水涵養量
 地下水位
 湧水量
 水質浄化機能変化
 水需要減少

河川

樹林化
 中規模河床形態
 瀬淵構造
 河床材料（粒径）
 河床低下・上昇
 流木
 地温上昇
 藻類環境

都市型浸水
 河川水位増加
 流速増大
 局所洗堀
 水温上昇
 水質悪化

湖沼・沿岸

成層場
 淡水流入
 土砂流入
 栄養塩流入
 底質環境
 塩水遡上
 水中光量
 プラクトン
 アオコ
 水草・海藻
 酸性化
 マイクロプラスチック
 食生活の変化
 事業所からの排熱・貯熱

高波浪
 異常潮位
 水温上昇
 水質悪化/改善
 循環消失
 水不足
 攪乱増大

影響

土石流
 地すべり
 天然ダム決壊
 河道閉塞
 洪水氾濫（内水、外水）
 土砂・洪水氾濫
 流木災害
 橋梁被災
 インフラ被害
 化学物質流出
 農作物北限・南限変化

渇水
 地下水枯渇
 取水障害

富（貧）栄養化
 栄養循環消失
 生息場変化
 レジームシフト
 魚類減少
 生物多様性低下
 底生生物減少
 浅海域・干潟消失
 塩害
 貧酸素化
 CO2放出
 メタン放出
 魚類遡上阻害
 水源不足（水道水）

対策（緩和&適応策）

砂防ダム
 森林管理
 流木捕捉工
 堤防強化
 ダム建設/弾力的運用/再開発/ダム間連携
 遊水地・調節池
 霞堤・二線堤
 地下河川
 放水路・分水路
 樋門・閘門・排水機場
 田んぼダム
 ため池
 都市浸透・貯留対策
 雨水調整池
 インフラマネジメント
 降雨予測（前線性・台風・線状降水帯・ゲリラ豪雨etc.）
 洪水予測
 早期・広域避難
 高齢者等避難
 避難誘導
 計画運休
 下水道・雨水幹線整備
 汚濁負荷削減・管理
 水循環健全化
 浅場・干潟・藻場造成
 底質改善
 取水手法改善
 土砂生産促進
 流入水質改善
 最適場人工の確保
 砂防ダム除去
 自然蛇行復元
 外来種除去
 塩水遡上制御堰
 魚道確保
 かわまちづくり・インフラツーリズム

研究課題

<素過程>
 水文統計
 陸面・蒸発散過程
 広域地下水流
 乱流/混相流/多孔質流れ
 洪水流/粗度評価
 河床波・河床形態
 構造物への流体力と破壊条件/堤防破壊確率・リスク評価
 成層とCO2・酸素・メタン鉛直拡散過程
 内部波と湧昇

<ハザードや関連現象の気候変動予測>
 降水・洪水予測技術
 土石流発生
 流木発生量
 水害・土砂災害変化
 水質・底質変化

<応用研究>
 流量観測/浸水域計測/衛星観測技術開発
 即時被害推定手法
 無害流量算定
 内外水/上下流/本支川バランス
 土砂・流木を考慮した河川計画
 流域治水対策/適応策
 定量評価
 構造物健全性診断
 粘り強さの評価手法
 極端気象現象に対するストレステスト
 不確実性下の意志決定法
 経済効果分析
 炭素貯留量推定（SAV）
 水質改善・管理策
 成層流変化

流域治水/流域環境管理

グリーンインフラ・Eco-DRR

国土強靱化

まちづくり/立地適正化/土地利用規制

耐水建築

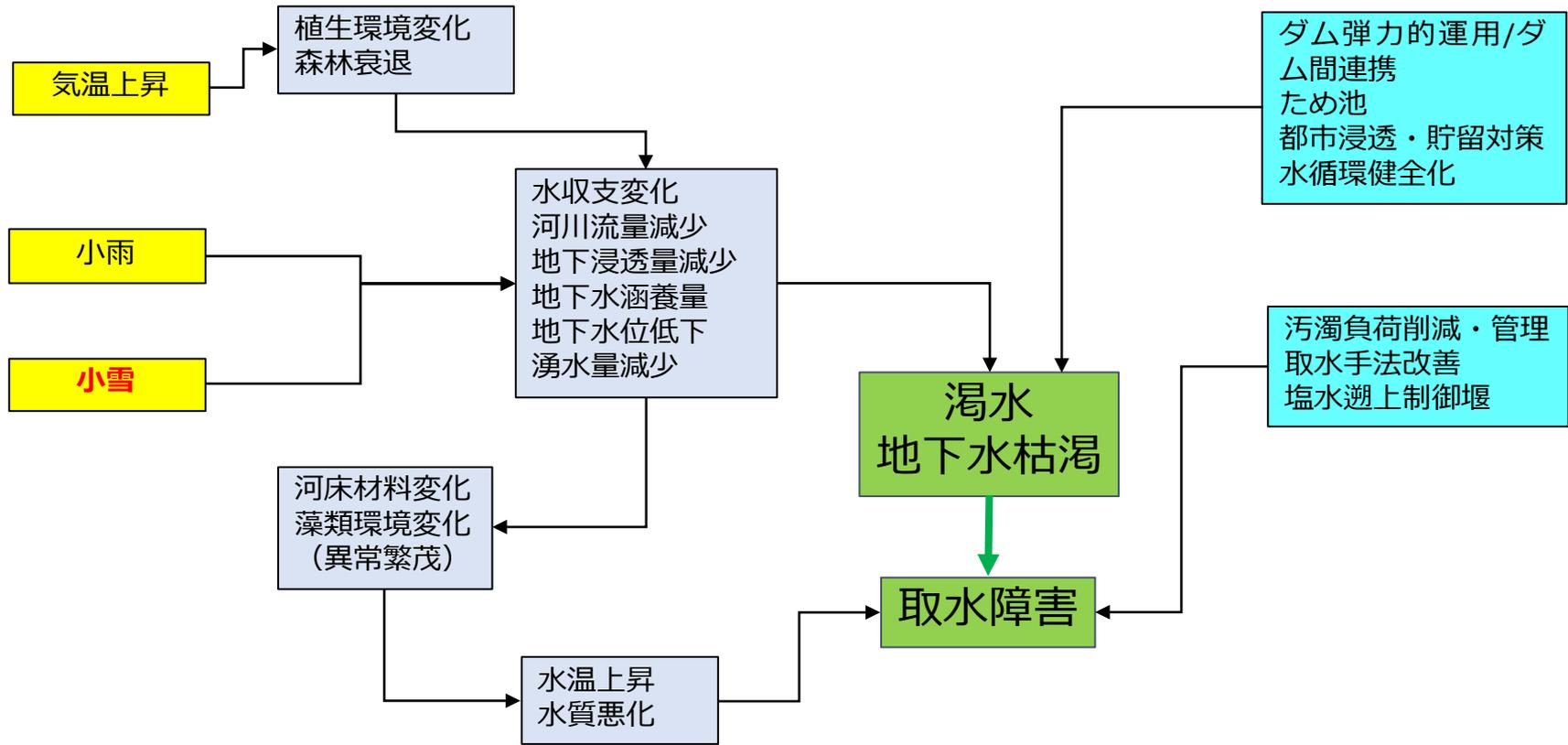
他分野連携（農水、林野、都市局）

SDGs/DX/Society5.0

水災保険・税制

AI/ドローン/ビッグデータ

連関図：「渇水」編

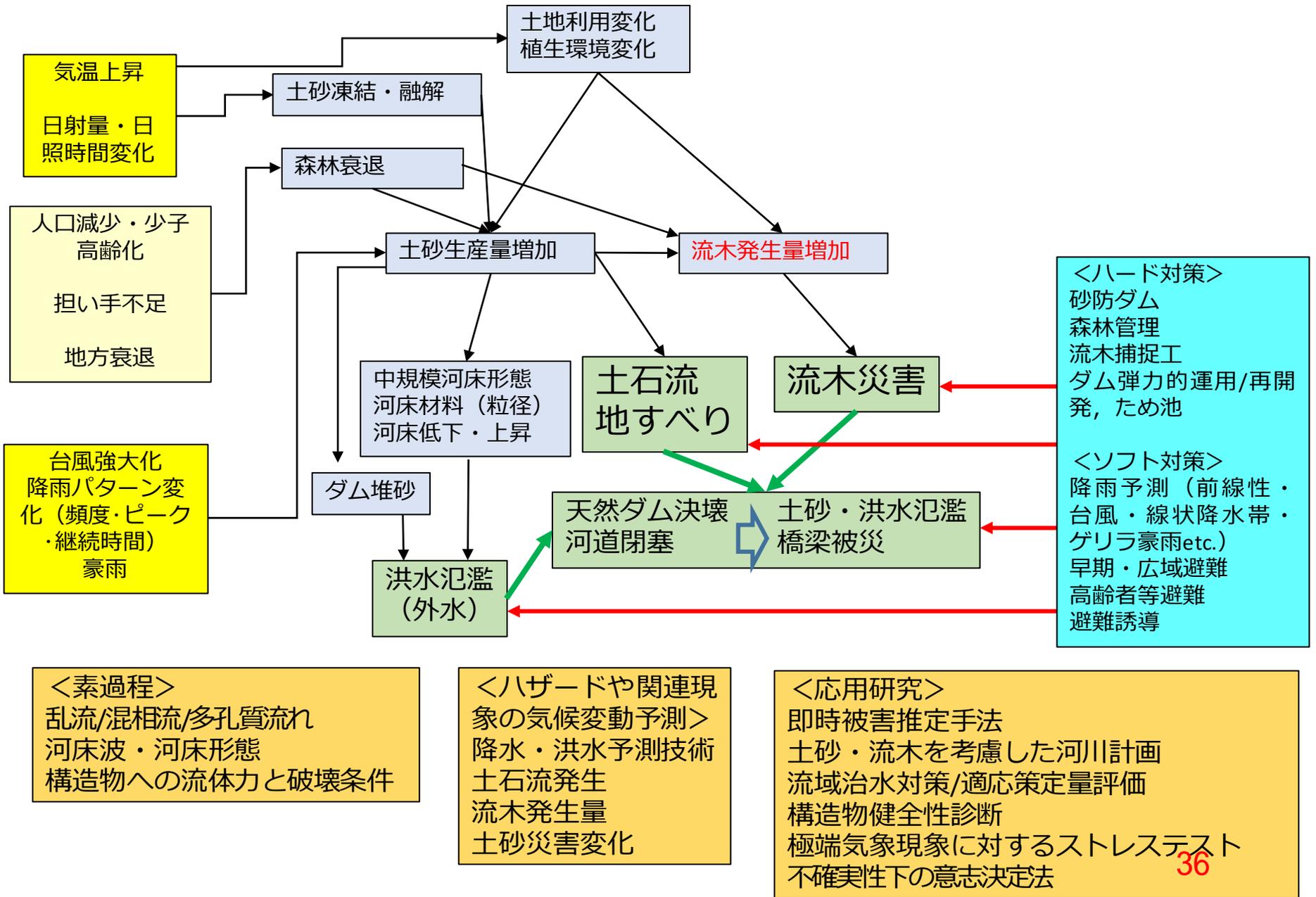


＜素過程＞
 水文統計
 陸面・蒸発散過程
 広域地下水流

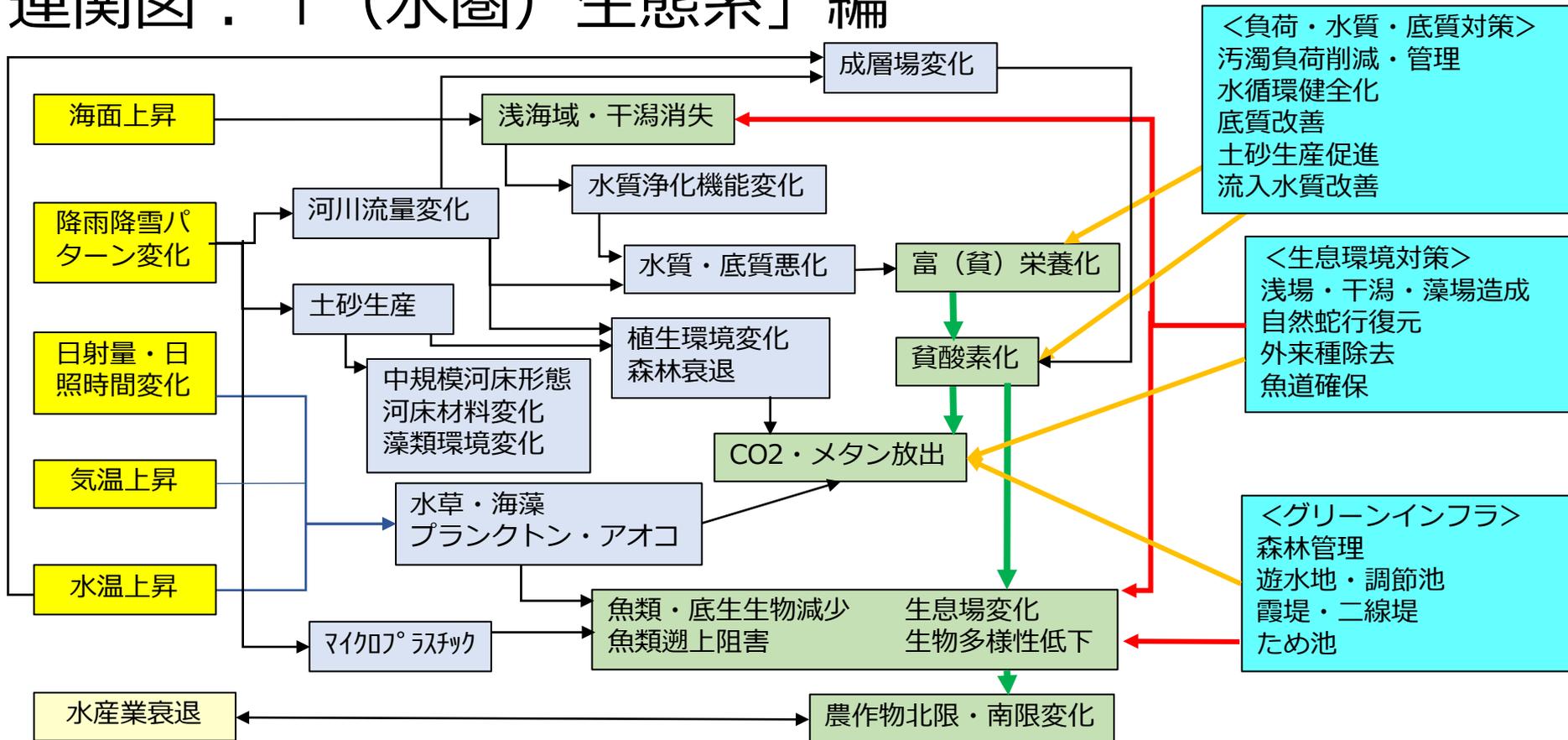
＜ハザードや関連現象の気候変動予測＞
 降水・降雪予測技術
 渇水発生予測
 水質・底質変化

＜応用研究＞
 適応策定量評価
 極端気象現象に対する
 ストレステスト
 不確実性下の意志決定法
 経済効果分析
 水質改善・管理策

連関図：「土砂・流木災害」編



連関図：「(水圏)生態系」編



＜負荷・水質・底質対策＞
 汚濁負荷削減・管理
 水循環健全化
 底質改善
 土砂生産促進
 流入水質改善

＜生息環境対策＞
 浅場・干潟・藻場造成
 自然蛇行復元
 外来種除去
 魚道確保

＜グリーンインフラ＞
 森林管理
 遊水地・調節池
 霞堤・二線堤
 ため池

＜素過程＞
 水文統計
 陸面・蒸発散過程
 乱流/混相流/多孔質流れ
 河床波・河床形態
 成層とCO2・酸素・メタン鉛直拡散過程
 内部波と湧昇

＜関連現象の気候変動予測＞
 降水・洪水・降雪予測技術
 水質・底質変化

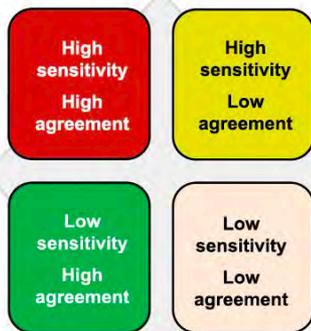
＜応用研究＞
 適応策定量評価
 極端気象現象に対する
 ストレステスト
 炭素貯留量推定 (SAV)
 水質改善・管理策
 成層流変化

土砂・流木災害(要素)

要素に関して			
要素名	理解/達成度	土砂・流木災害への重要度	温暖化のインパクト
乱流/混相流/多孔質流れ			
構造物への流体力と破壊条件			
河床波・河床形態			
降水・洪水予測技術			
土石流発生			
流木発生量			
土砂災害変化			
即時被害推定手法			
土砂・流木を考慮した河川計画			
流域治水対策/適応策定量評価			
構造物健全性診断			
極端気象現象に対するストレステスト			
不確実性下の意志決定法			
			1：全くない 2：ない 3：あまりない 4：少しある 5：あり 6：とてもある

土砂・流木災害(要素間関係)

要素と要素の連携		理解/達成度	土砂・流木災害への重要度	温暖化のインパクト
気温上昇、日射量日照時間変化	→ 土地利用変化・植生環境変化			
気温上昇、日射量日照時間変化	→ 土砂凍結・融解			
人口減少・少子高齢化、担い手不足、地方衰退	→ 森林衰退			
台風強大化、降雨パターン変化（頻度・ピーク・継続時間）、豪雨	→ 土砂生産量増加			
土地利用変化・植生環境変化	→ 土砂生産量増加			
土砂凍結・融解	→ 土砂生産量増加			
森林衰退	→ 土砂生産量増加			
土地利用変化・植生環境変化	→ 流木発生量増加			
森林衰退	→ 流木発生量増加			
土砂生産量増加	→ 流木発生量増加			
土砂生産量増加	→ 土石流、地すべり			
土砂生産量増加	→ 中規模河床形態、河床材料（粒径）、河床低下・上昇			
土砂生産量増加	→ ダム堆砂			
ダム堆砂	→ 洪水氾濫（外水）			
中規模河床形態、河床材料（粒径）、河床低下・上昇	→ 洪水氾濫（外水）			
流木発生量増加	→ 流木災害			
対策関連		理解/達成度	土砂・流木災害への重要度	温暖化のインパクト
流木災害へのハード対策				
流木災害へのソフト対策				
土石流・地すべりへのハード対策				
土石流・地すべりへのソフト対策				
洪水氾濫（外水）へのハード対策				
洪水氾濫（外水）へのソフト対策				



- 1：全くない
- 2：ない
- 3：あまりない
- 4：少しある
- 5：あり
- 6：とてもある

Fig. 5. Grouping of relationships between flood hazard parameters and important issues

構成

委員長 田中規夫(埼玉大)、幹事長 戸田祐嗣(名古屋大)
委員 20名

R3年度の活動報告

河積管理WG, 堤防侵食WGを中心に活動。成果を2021河川技術論文集に投稿

【河積管理WG】

「持続可能な河道の流下能力の維持・向上」を実現するための河道管理技術・研究開発の方向性

【堤防侵食WG】

堤防侵食に対する維持管理・対策技術向上に向けた研究・技術開発の課題整理

河川財団・緊急座談会「維持管理に関する河川技術にどう向き合うべきか!?!」
(2021.08.18)

具体の現場を対象に堤防決壊リスクを評価できる技術検討フレームを構築する必要性などを議論

小委員会(2021.09.28) : オンライン開催

「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム」タスクフォース設置を承認 40

R3年度の活動報告(つづき)

第1回目「堤防の侵食に対する安全性評価のための技術検討フレーム・タスクフォース」打合せ(2021.11.05)

小委員会から選出したメンバー以外に泉(北大), 岩崎(北大), 藤田(河川財団)が参画
流れ・河床変動解析と堤防侵食フォルト・ツリーを結合させた技術検討フレームの骨格を作る(年度内)
年度末または年度当初にタスクフォースの成果に関するワークショップを開催

今後の予定

河積管理WG, 堤防侵食WG活動

アカデミックリサーチマップ, フィージビリティ・スタディ等について検討を進める

技術検討フレーム・タスクフォース

R01東日本台風での千曲川・上田鉄道橋被災箇所を対象に侵食リスクの技術検討フレームを構築・適用し, 適用可能性の吟味, 課題抽出を行う

水理公式集例題集編集小委員会

- 赤松良久（山口大学）
- 泉 典洋（北海道大学，委員長）
- 入江政安（大阪大学）
- 内田龍彦（広島大学）
- 小原一哉（いであ）
- 片山直哉（パシコン）
- 佐山敬洋（京都大学）
- 白崎伸隆（北海道大学）
- 手計太一（中央大学，幹事）
- 山城 賢（九州大学）

五十音順

※赤字は今年度から

水理公式集例題集の編集方針

- 水理公式集掲載の公式をどう使うのかを理解するための例題集でありプログラム集
- 昭和60年版例題集の発展版＋プログラム集
- プログラム集はオープンソース，オープンデータを基本とし，GitHub等でコミュニティ (GitHubではOrganization) を作り公開・共有

編集小委員会実施状況

第4回編集小委員会（令和2年度第4回）

日時：2021年3月31日（水）11:00～12:03

出席者：泉，小原，佐山，入江，手計（50音順）

- これまでの議論の復習.
- 海岸と衛生から委員を出してもらおうよう親委員会に依頼する.

第5回編集小委員会（令和3年度第1回）

日時：2021年7月27日（火）13:00～14:30

出席者：赤松，泉，入江，内田，小原，片山，佐山，白崎，手計，山城（50音順）

- 自己紹介とこれまでの議論の共有.
- 各編の担当者の決定.
 - 第1編：片山，手計，第2編：内田，佐山，第3編：小原，泉，第4編：白崎，第5編：入江，山城，第6編：赤松，入江
- 担当者が問題案と作題者案の作成作業に入る.

第6回編集小委員会（令和3年度第2回）

日時：2021年9月29日（水）13：00～14:03

出席者：赤松，泉、入江、内田、小原、片山、佐山，白崎，手計，山城（50音順）

- 進捗状況の報告.
- 年度内に具体的な形にするのを目標とする.

第7回編集小委員会（令和3年度第3回）

日時：2021年10月15日（金）10:00～11:35

出席者：赤松，泉，入江，内田，小原，片山，佐山，白崎，山城（50音順）

- 今回の例題集は昭和60年版例題集をベースに作成. 重要な問題でかつ手計算で解けないような問題については，プログラムをオープンソースでつける.
- 今年度中に「どのような問題を誰に執筆してもらうか」まで決めるというスケジュール感で今後の作業を進めることになった.

第1回編集小委員会ダム部会

日時：2021年10月5日（火）16:30～17:40

出席者：角哲也（京都大学），箱石憲昭（ダム技術センター），佐藤隆宏（電力中央研究所），今村正裕（電力中央研究所），泉典洋（北海道大学），小原一哉（いであ株式会社）（順不同）

- 編集方針等の説明.
- 角先生から問題案および作題者案が提出された.

第2回編集小委員会ダム部会

日時：2021年10月12日（火）13:00～13:30

出席者：角哲也（京都大学），箱石憲昭（ダム技術センター），佐藤隆宏（電力中央研究所），今村正裕（電力中央研究所），泉典洋（北海道大学），小原一哉（いであ株式会社）（順不同）

- 問題案および作題者案がほぼ確定された.
- 今後はメール審議を行って最終案を策定.

水理公式集例題集目次 (案)

第1編 水文・水理 (32題)

1 流体力学の基礎	
1.1 円柱周りの流れと圧力分布(S60 版)	内田 (広島大)
1.2 浮体の安定(S60 版)	内田 (広島大)
1.3 粗度と流速(S60 版)	内田 (広島大)
2 気象と大気・陸面水文過程	
2.1 湖面蒸発と湖面の水位変動(S60 版)	小田 (千葉工大)
2.2 蒸発散 (1) 経験式(H13 版)	小田 (千葉工大)
2.3 蒸発散 (2) バルク法(H13 版)	小田 (千葉工大)
2.4 気象データを利用した融雪流出計算(H13 版)	陸 (長岡技科大)
3 流出過程と流出解析	
3.1 タンクモデルの同定(S60 版)	河村 (東京都立大)
3.2 貯留関数法	河村 (東京都立大)
3.3 Kinematic wave 法による流出計算 (1) 特性曲線法(H13 版)	市川 (京都大)
3.4 Kinematic wave 法による流出計算 (2) 直接差分法(H13 版)	市川 (京都大)
4 水文量の確率・統計解析	
4.1 水文量の時系列解析	葛葉 (三重大)
4.2 水文量の頻度解析	葛葉 (三重大)
4.3 超過確率と非超過確率	葛葉 (三重大)
4.4 確率分布の母数推定と確率紙による確率分布のあてはめ	葛葉 (三重大)
5 開水路流れ	
5.1 二次流(S60 版)	木村 (富山大)
5.2 カルマン渦(S60 版)	木村 (富山大)
5.3 河川での拡散(S60 版)	木村 (富山大)
6 管路流れ	無し
7 噴流・密度流・混相流	
7.1 流れの中に放出される密度噴流	赤堀 (愛知工大)
7.2 密度噴流の上昇限界	赤堀 (愛知工大)
7.3 塩水くさび	赤堀 (愛知工大)
7.4 内部跳水	赤堀 (愛知工大)
8 浸透流・地下水流	
8.1 地下水浸透量(S60 版)	江種 (和歌山大)
8.2 地下水中の物質分散(S60 版)	江種 (和歌山大)
8.3 地下水頭の変動シミュレーション(H13 版)	中川 (長崎大)
8.4 特性曲線法による地下水物質輸送解析(H13 版)	中川 (長崎大)
8.5 地下水の塩水化(H13 版)	中川 (長崎大)
9 流体力・流体振動	

9.1 円柱に作用する流体力(S60 版)	岩崎 (北海道大)
9.2 ギャロッピング(S60 版)	岩崎 (北海道大)
9.3 衝撃波(S60 版)	岩崎 (北海道大)
10 水理模型実験・相似則	
10.1 河川の模型実験における相似則	小山 (中央大)
10.2 ダムの模型実験における相似則	小山 (中央大)

第2編 河川・砂防 (20 題)

2.1 短時間降雨予測：移流モデル, DAD 解析	山口 (京都大)
2.2 実時間流出予測：カルマンフィルタ	佐山 (京都大)
2.3 粗度係数	田中 (埼玉大)
2.4 一次元解析	重枝 (九州工大)
2.5 複断面水路の不等流	竹村 (中央大)
2.6 局所流の水理計算	高橋 (日大)
2.7 平面二次元解析	内田 (広島大)
2.8 洪水追跡(非定常流)	重枝 (九州工大)
2.9 貯水池の洪水調節	佐山 (京都大)
2.10 河川流量の水理観測	椿 (名古屋大)
2.11 氾濫解析	川池 (京都大)
2.12 土石流	里深 (立命大)
2.13 一様砂の流砂量	平松 (寒地土研)
2.14 混合砂の流砂量	平松 (寒地土研)
2.15 河床変動	竹林 (京都大)
2.16 河岸浸食	竹林 (京都大)
2.17 河床形態	溝口 (名城大)
2.18 河道の動的安定状態と河道形状	泉 (北海道大)
2.19 堤体の浸透・破壊	音田 (京都大)
2.20 構造物周辺の局所洗堀	神田 (明石高専)

第3編 ダム (15 題)

3.1 台形せきの越流量	石神 (土研)
3.5 低水頭ゲートの流出量	石神 (土研)
3.6 ゲートに働く外力と振動	石神 (土研)
3.7 ダム洪水吐の設計	石神 (土研)
3.9 緩閉塞した場合の最大圧力上昇とその周期	佐藤 (電中研)
3.10 差動型サージタンクの最高上昇水位	佐藤 (電中研)
3.11 サージタンクの安定限界 電中研佐藤氏	佐藤 (電中研)
3.12 ダムに作用する地震時動水圧	金銅 (国総研)
3.15 選択取水設備の設計	今村 (電中研)

3.18 密度二成層水域からの選択取水	今村 (電中研)
3.19 線形密度分布域からの取水	今村 (電中研)
3.20 取水による浮遊体の取り込み確率分布	今村 (電中研)
N.1 放流設備増設関連	石神 (土研)
N.2 堆砂形状の時系列予測	佐藤 (電中研)
N.3 排砂設備の摩耗	角 (京大)

第4編 水資源と上下水道 (12題)

4.1 配水管網の計算	成田 (株式会社 NJS)
4.2 雨水ますの設置間隔	木村 (株式会社日水コン)
4.3 排水ポンプの選定	露無 (株式会社 NJS)
4.4 水処理装置内の流動特性	白崎 (北海道大)
4.5 凝集・沈殿	白崎 (北海道大)
4.6 活性炭汚過	白崎 (北海道大)
4.7 生物膜法の動力学	押木 (北海道大)
4.8 活性汚泥法の動力学	押木 (北海道大)
4.9 Monod 式を利用した活性汚泥法の設計	野田 (株式会社日水コン)
4.10 合理式による雨水流出量の解析	木村 (株式会社日水コン)
4.11 雨水滞水池	露無 (株式会社 NJS)
4.12 汚泥の管路輸送	橋本 (東京大)
4.13 汚泥の脱水	押木 (北海道大)
4.14 膜処理 (新規)	橋本 (東京大)

第5編 海岸・港湾 (29題)

1. 波浪 (波の基礎を含む)	
1-1 微小振幅波理論 (水面波の基本的性質)	平山 (港空研)
1-2 ストークス波・クノイド波	余 (中国・北京精華大学)
1-3 波浪の統計的性質とスペクトル	平山 (港空研)
1-4 高波の極値解析 (最適な極値分布の推定)	畑田 (愛媛大)
1-5 風波の発達とうねり	橋本 (九州大)
2. 波の変形	
2-1 浅水変形	山城 (九州大)
2-2 波の屈折と砕波変形	山城 (九州大)
2-3 反射率の算定	どなたか or 山城 (九州大)
2-4 砕波帯内外の平均水位の変化	鈴木 (横国大)
2-5 流れによる波の変化	鈴木 (横国大)
3. 長周期の波 (沿岸の流れを含む)	
3-1 潮汐	高川 (港空研)
3-2 高潮	高川 (港空研)

3-3 津波	高川 (港空研)
3-4 長周期重力波	齋田 (鹿児島大)
3-5 吹送流	齋田 (鹿児島大)
4. 漂砂と海岸過程	
4-1 海浜断面の分類	小野 (エコー)
4-2 海面上昇による汀線後退量予測 (Bruun 則)	小野 (エコー)
4-3 移動限界水深と漂砂量	小野 (エコー)
4-4 突堤周辺の汀線形状の変化	中村 (港空研)
4-5 飛砂量	有働 (東北大)
5. 構造物への波の作用	
5-1 海岸堤防への波の打ち上げ高	加藤 (国総研)
5-2 護岸の天端高と越波量	久保田 (不動テトラ)
5-3 円柱構造物	水谷 (名古屋大学)
5-4 防波堤に働く波力と消波ブロックの所要質量	久保田 (不動テトラ)
5-5 海底地盤への波の作用	鈴木 (港空研)
6. 海岸環境と流れ	
6-1 内部波	中山 (神戸大)
6-2 非保存物質の拡散過程 (水質モデル的な)	入江 (大阪大)
6-3 海水交換と滞留時間	中山 (神戸大)
6-4 河口砂州の延伸距離	田中 (東北大)

第6編 流域圏環境 (10題)

1. 熱収支に関する問題 (平衡水温)	宮本 (芝浦工大)
2. 沈降速度に関する問題	新谷 (東京都立大)
3. 水質に関する問題 (魚の生存限界区間)	田中 (埼玉大)
4. 生態系に関する問題 (Lotka-Volterra の競争モデル)	戸田 (名古屋大)
5. 汚濁負荷に関する問題 (LQ 式)	二瓶 (東京理科大)
6. 生息場に関する問題 (PHABSIM など)	田代 (名古屋大)
7. ダム貯水池・湖沼に関する問題	
1) 風応力の大きさと水体の混合+セイシュ	矢島 (島根大学)
2) 気泡噴流による混合	古里 (鹿児島大)
3) Vollenweider による栄養化判定	梅田 (日本大)
8. 拡散に関する問題	仲敷 (電中研)

- メンバー
入江 政安(大阪大), 谷口 健司(金沢大), 岩崎理樹(北海道大), 赤穂 良輔(岡山大), 岡田 輝久(電中研), 柏田 仁(理科大), 後藤 岳久(中央大), 齋田 倫範(鹿児島大), 瀬戸 里枝(東工大), 峠 嘉哉(東北大), 松本 健作(静岡理工科大), 丸谷 靖幸(九州大), 重枝 未玲(九州工業大)
- オブザーバー
立川 康人委員長, 矢野 真一郎幹事長, 溝口 敦子前オンラインWG長
- 担当
オンライン連続講演会・水工学講演会オンライン実施部分(WGメンバー+アルバイト33名)

オンライン連続講演会

回	開催日時	講師	講演題目・内容
11	2021年6月16日(水)17時～	朝田 将 様(国土交通省水管理・国土保全局河川計画課河川計画調整室長)	題目 「流域治水の推進 ～大学・研究機関との協働～」
12	2021年9月1日(水)17時～	中村 晋一郎 先生(名古屋大学工学研究科 准教授)	題目 「洪水の確率主義の成立とその後の変遷ー基本高水をめぐる技術と社会の近代史ー」
13	2021年11月18日(木)17時～	大本 照憲 先生(熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 特任教授)	題目 「最近の九州における河川災害の実態と近世の治水について」

- 第14回 2022年2月 河川部会
 第15回 2022年4月 水文部会
 第16回 2022年6月 環境水理部会

CommonMP開発・コンソーシアム

構成

委員長 山田正(中央大)
 幹事長 風間聡(東北大)
 技術部会長 立川康人(京都大)

母体:国土交通省 都市・地域整備局下水道部, 水土・保全局,
 国総研, 土木学会, 建コン協, 上下水コン協



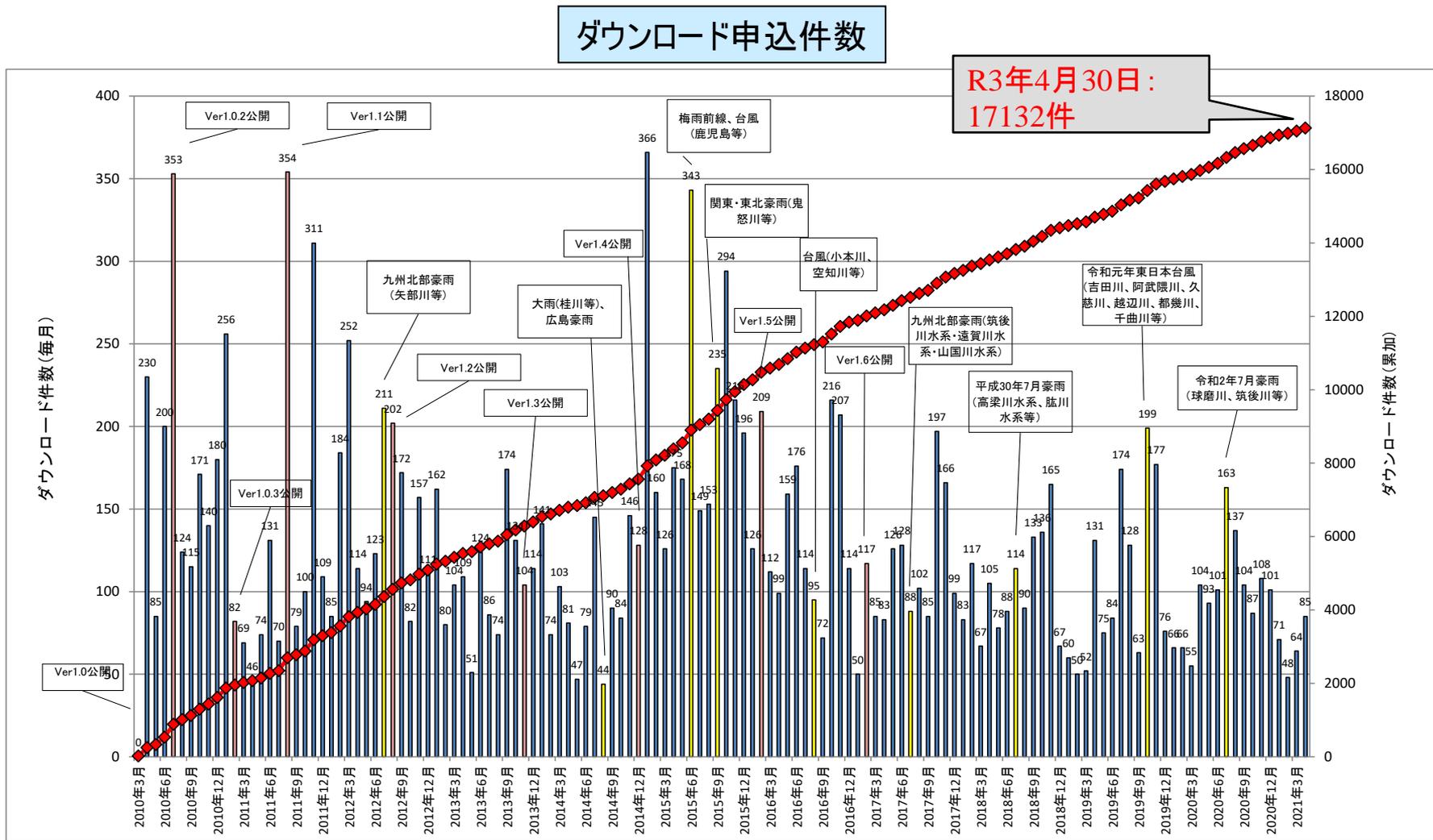
R3年度の主な活動(予定)

- 2021年12月6～10日 CommonMP研修会 国土交通大学校
- 2022年2月1日 河川計画研修 国土交通大学校
- 2022年1月～3月 第12回CommonMP推進委員会・第22回幹事会
 (合同開催):活動計画・方針の決定

(2021年7月に開催予定であったがコロナ情勢のため延期中)

昨年引き続き活動がかなり制約されている。

CommonMP本体のダウンロード申込件数（月別）



※ダウンロード申込件数 : CommonMPウェブサイトからCommonMPもしくはCommonMP-GISのダウンロードを申込した総件数のことで、1人で複数PC分の申込やGISライセンス更新に伴う再申込の回数を含む累計である。

年度別申し込み件数: 2009年度20件/2010年度2,005件/2011年度1,795件/2012年度1,612件/2013年度1,285件/ 2014年度1,496件/2015年度2,376件/2016年度: 1,504件/2017年度: 1,341件/2018年度: 1,138件/2019年度: 1,294件/2020年度: 1,181件

令和3年度の主な活動

○一次元不定流計算(2step Lax-Wendroff法)の要素モデルについて、国土技術政策総合研究所水循環研究室ウェブサイトにて公開した。(2021年7月)

<データ処理支援ツールの公開>

○CommonMP様式の縦横断データを比較することにより、河道や樹木群の改変量を概算するデータ処理支援ツールを公開した。(2021年7月)

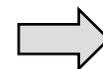
<CommonMPウェブサイト修正>

○ウェブサイトのコンテンツを整理し、メニューバーをシンプルにすることでページ構成を分かりやすくした。

整理前



整理後



<講習会実施>

○地方整備局講習会や国土交通大学校研修について、昨年に引き続きオンライン形式で実施している。

今後のスケジュール(案)

	令和2年度												令和3年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要素モデル等の公開			6月 支援ツール公開									3月 本体ソースコード公開				7月 要素モデル公開 支援ツール公開								
プロジェクト・委員会				6月(メール開催) 推進委・幹事会								3月 第20回技術部会												1~3月(予定) 推進委・幹事会 技術部会
研修・講習会等																								
その他																								

土木学会論文集編集委員会

B編小委員会 風間

編集調整会議

2021年8月2日

B編集小委員会名が変更:水圏工学編集小委員会(21小委員会)

来年1月より新体制: 水工学特集号委員:立川(代理可)

水工関連委員 風間

1月より新投稿システム

投稿要領, 原稿作成例のマイナー修正

→ 土木学会誌11月号(委員会報告「2023年より
土木学会論文集の構成が変わります!」)に記事

2021年10月25日

6月頃より英文投稿システム

新編集システムの説明会が11月に予定

特別号(水工学論文集)関連は溝口先生から:英文誌関連他

土木学会論文集編集委員会 電子化小委員会 報告

電子化小委員会副委員長 内田龍彦（広島大学）

新しい土木学会論文集の体制

役職	人数	和訳（現在の役職）
Chair	1	委員長
Vice Chair	1	副委員長
Managing Editor	2	幹事長，副幹事長
Editor	19	分冊委員長 編集小委員会委員長
Editor	15 16	特集号編集委員長
Associate editor	リンク※	分冊委員 編集小委員会委員
Associate editor	リンク※	特集号編集委員
Advisory board（検討中）	20	"各分冊からの推薦者（著名な日本人1+世界的に有名な研究者1目標）"

和文統合と投稿システム（EM）導入スケジュール

	編集調整会議	電子化小委員会	その他
～2021.12		試行運用	HP修正等
2022.1	第3回編集調整会議 J.JSCE投稿要項検討開始	EM投稿スタート（和文） 投稿システム検討開始（英文）	
2022.4	第4回編集調整会議 J.JSCE投稿要項確定		J-STAGE掲載目次 （和・英）決定
2022.6		英文投稿スタート？	
2022.7	第1回編集調整会議	（特集号）システム仕様検討	
2022.10	第2回編集調整会議		
2023.1	新論文集（和）発行（1編必須） ※旧19分冊論文集も平行して発行	（特集号）投稿スタート？	
2024.1	※旧19分冊論文集終了	旧システム終了	

⇒ 来年度水工学論文集は旧，再来年度が新論文になる

和文統合論文 Japanese Journal of JSCE

・通常号：毎月1回発行／特集号：各年1回発行

- ① 通常号と特集号は合併する。
- ② 巻 (Vol.) : 発行年に対応させ、通常号と特集号は同じ巻 (Vol.) とする。土木学会論文集の継続性を考慮して、2023年から79巻 (Vol.79) とする。
- ③ 号 (No.) : 通常号は1月号が1号 (No.1) で12号 (No.12) まで。特集号は13号 (No.13) ~
- ④ 特集号は、編集段階 (あるいは募集段階) で和文論文と英文論文に分け、和文論文を掲載する。
※詳細は要検討
- ⑤ カテゴリー：通常号は、21件の投稿カテゴリーを8つのカテゴリーに分け掲載する。
→投稿カテゴリー (水工学, 海岸工学, 海洋開発), 編集小委員会 (水健康学編集小委員会/21小委員会), 掲載カテゴリー (河川・海岸・海洋工学と水文学)

表1: 2023年からの和文論文集のVol.とNo.

Year	論文集構成	No.とVol.	
2023	通常号(1月公開)	Vol.79	No.1
2023	通常号(2月公開)	Vol.79	No.2
2023	通常号(3月公開)	Vol.79	No.3
	⋮		
2023	通常号(12月公開)	Vol.79	No.12
2023	特集号(地震工学)	Vol.79	No.13
2023	特集号(複合構造)	Vol.79	No.14
2023	特集号(応用力学)	Vol.79	No.15
2023	特集号(水工学)	Vol.79	No.16
2023	特集号(海岸工学)	Vol.79	No.17
2023	特集号(海洋開発)	Vol.79	No.18
2023	特集号(トンネル)	Vol.79	No.19
2023	特集号(土木計画学)	Vol.79	No.20
2023	特集号(舗装工学)	Vol.79	No.21
2023	特集号(土木情報学)	Vol.79	No.22
2023	特集号(建設マネジメント)	Vol.79	No.23
2023	特集号(安全問題)	Vol.79	No.24
2023	特集号(環境工学)	Vol.79	No.25
2023	特集号(環境システム)	Vol.79	No.26
2023	特集号(地球環境)	Vol.79	No.27
2023	特集号(木材工学)	Vol.79	No.28
2024	通常号(1月公開)	Vol.80	No.1
2024	通常号(2月公開)	Vol.80	No.2
2024	通常号(3月公開)	Vol.80	No.3
	⋮		

英文論文 Journal of JSCE

- ① 号 (No.) : 通常号は年1回発行し, 1号 (No.1) とする.
特集号 (英文論文) は, 2号 (No.2) とし, 全ての特集号の英文原稿を収める.
※詳細は要検討

- ② 特別企画 (英文論文) は, 3号 (No.3) とする.

表3: 2023年からの英文論文集 (Journal of JSCE) の Vol.と No. (例)

Year	土木学会論文集	Vol.	No.
2023	土木学会英文論文集	Vol.11	No.1
2023	特集号(英文論文集)	Vol.11	No.2
2023	特別企画	Vol.11	No.3
	・		
	・		
2024	土木学会英文論文集	Vol.12	No.1
2024	特集号(英文論文集)	Vol.12	No.2
2024	特別企画	Vol.12	No.3
	・		
	・		

※ 水工学論文集の場合は数が多いのでひとつの特集号にした方がよいかも. . .

論文投稿要項の最近の修正事項 (一部対応を要するところ)

■ 土木学会論文集倫理基準に従うこと

■ *Corresponding Author*明記

□ 二次出版は以下の条件を満たす場合は認められる。

また、5)に関しては以下の要件を満たしている他言語の論文については、二次出版を認める場合がある。

1) 双方の雑誌の編集者が承認している。

2) 一次出版と二次出版との間隔は一次出版の優先権を尊重するのに十分である。

3) 二次出版される論文の対象は、一次出版とは異なる読者層である。

4) 二次出版の論文のタイトル、著者、内容は一次出版と同じであり、一次出版された論文の二次出版であることが明記されている。

個々の論文がこれらに該当するか否かの判断は編集委員会で行う。この判断を容易にし、また正確を期すため、投稿にあたっては、既発表の内容を含む場合、あるいは関連した内容の場合には、これまでどの部分を、どの程度、どこの刊行物に発表してあるかを論文中に明確に記述すること。

□ References

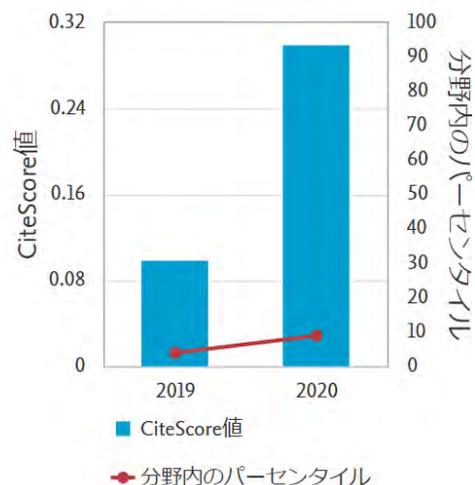
[英文併記]が必須。ただし、学術論文でなく半永久的でない情報などはNOTESを活用することもできる。

□ EM対応

旧システム廃止。

メリットとお願い

CiteScoreトレンド 0.5 (2021)



参考

JHR : 4.3

JHE : 4.1

CEJ : 3.9

SF : 3.5

JACT : 2.6

JJSCE

1) Scopus 収録

2) ESCI 申請中 (成長) -> IF ?

土木学会論文集(JJJ)

Scopus, ESCIに申請予定

(月刊誌になると反応が早いことも期待できる)

水工学論文集推薦論文(旧JHHE), 英文論文, 特別企画論文等への積極的な投稿をお願いします。

水文水理観測分野：ISO/TC113 (Hydrometry)

(ISO-TC113国内検討委員会 活動状況)

1. TC113 (Hydrometry: 水文水理観測) の概要

TC113 (Hydrometry: 水文水理観測)は、「開水路における水位、流速、流量及び土砂輸送、降水、蒸発散、そして地下水の利用と挙動に関する水文観測の方法、手法、機器そして装置の標準化」を対象とする国際標準化機構 (ISO) における専門技術部会 (TC)である。我が国の唯一の正式なISO会員である日本産業標準調査会 (JISC)からの依頼により、(公社)土木学会がISO/TC113の国内審議団体の役割を果たしており、2000年3月から水工学委員会の下で国内検討委員会を立ち上げ、審議活動を開始している。

TC113は、以下のように、全体を統括する本委員会とともに、5つの分科会 (Sub-Committee) から構成されている。

	幹事国	参加形態	発行規格	審議中規格
① TC113 本委員会	: インド	P	8	5
② SC1 (面積流速法=開水路流量観測)	: インド	P	12	1
③ SC2 (観測構造物=堰など)	: インド	P	17	2
④ SC5 (測定機器とデータ管理)	: 米国	P	11	2
⑤ SC6 (土砂輸送)	: インド	O	11	1
⑥ SC8 (地下水)	: 米国	O	6	0

これらの各分野における国際標準規格は、我が国における河川・水資源等の計画・管理に係る諸技術基準に関連するだけでなく、水文観測およびそのデータ取得のための様々な観測機器諸元やデータ管理等に関連する我が国の民間における活動にも関連し、かつ、それらの諸活動の国際展開の共通基盤として大きな役割を果たすものである。

2. 最近の動向

本稿では、令和2年度中の動きを中心に最近の動向を紹介する。

(1) 定期国際会議の動向

TC113としては、概ね1年半に1回の頻度で定期的に国際会議(総会)を開催してきた経緯がある。日本としては、2004年5月17-21日に第23回総会をつくば(研究交流センター)、2015年5月24-29日に第30回総会を東京(土木学会)にてそれぞれホストしている。2017年10月9-13日には第31回総会がインド・Noidaにて開催された後、第32回が2019年春に中国にて当初開催される予定であったが、延期のアナウンスがあった後、現在、開催の目処は立っていない。ISO規格制定・見直し・レビュー等の実務は、ISO公式Webサイトやメールによる周知・情報交換・意見共有を図ることにより、それぞれの課題毎に個別に実施しているのが現状である。

(2) TC113本委員会の動向

現在審議中の主な規格は以下の通り（数字はISO規格番号）。

(a) 772（水文観測用語・記号集）

WG4を組織し、定期レビューが行われてきた。現在DISとして審議中の段階である。

(b) 25377（水文観測の不確実性評価ガイドライン）

2020年12月に、ISとして出版された。

(c) AWI 23334（雨量観測所密度）

本件に関する新規提案は3回目であった。今回は、英国専門家を主査としたWG8を組織して審議を開始する提案となっている。2020年8月締切で投票が行われ、2021年2月24日発の連絡によると、米国をはじめとして一部に根強い反対意見が残るが、賛成多数であったようである。TC113は、水文観測全般をScopeに入れているとは言え、伝統的に地表水（および地下水）に係る各種観測技術を中心に規格を審議・制定してきており、降水量観測に関する規格に関する審議案件は、（観測機器・システムに関するものを除き）WMO（世界気象機関）における限定的な検討に委ね、ISO/TC113では実質的にほとんど議論されてこなかったと考えられる。したがって、本新規提案が正式承認されるかどうかは、今後のTC113活動範囲を占う試金石となる。正式通知が待たれる。

(3) SC1（流速断面積法＝開水路流量観測法）の動向

現在審議中の主な規格は以下の通り。

(a) 748（開水路流量観測-点流速計測による流速断面積法）

SC1の分科会名の由来に密接に関係しており、本SC1のみならずTC113全体にとっても、最も基幹的な規格の一つと言える。SC1におけるWG10において、2007年版のReviewとそれを踏まえた修正審議が進められている。現在、DISに対する修正意見が収集された段階にある。

→ 2021年9月にISOとして承認された。

(b) TR 11330（湖沼・貯水池水量決定法）

DTR(国際技術報告書案)の段階まで検討が進んでいたが、ISO事務局よりTRではなくTSとするのが適切との判断がなされ、今後、TS化の検討が改めて進められる見込みである。

(c) TS 24577（非接触型流速計による表面流速と流量観測）

2015年にSC1におけるSC1/WG9（Convenor: 萬矢委員）として本規格の作成プロジェクトが開始され、日本が国際規格化を主導している。当初はTRとしての規格化が想定されていたが、2019年5月に修正した案に対して、ISO事務局からTRとしてではなくTS（国際技術仕様書）とするのが適切との判断がなされ、それが2020年2月に投票により採決された。2020年12月に萬矢委員はWG9のConvenorとして再選されており、引き続きTS化の検討が進められる見込みである。

(d) 24578（超音波ドップラープロファイラー：開水路における舟からの流量観測と利用）

2015年に当時のISO/TR24578(2012年公刊)をISとしてアップグレードするプロジェクトがSC1におけるWG11として開始され、それに萬矢委員がConvenorとして参画し、日本が国際規格化を主導している。2019年5月に提出したDIS案に対して2020年4月までに修正意見とともに承認が得られた。今後FDISとしての検討に入る見込みである。

→ 2021年3月にISOとして承認された。

(3) SC2 (観測構造物) の動向

現在審議中の主な規格は以下の通り。

(a) 4359 (長方形、台形、U字型フリームによる開水路流量観測)

2013年版の定期レビューを受けて、2020年9月に本ISを修正するとの提案が採決され、同時に、英国委員を座長とするSC2/WG6が設置された。現在、修正案審議が継続している。

(b) 4360 (縦断方向が三角形型の堰を用いた開水路流量観測)

2008年版の定期レビューを受けて修正検討が行われ、2019年7月に収集されたDISへの修正意見への対応案が2020年1月にとりまとめられた。それを受けて、2020年6月に2020年版としてISとして出版された。

(c) TR 19234 (三角堰での魚道を支援する低コストのバツフルによる解決法)

2016年版TRの定期レビューを受けて、2020年6月に修正を行うSC2/WG9 (座長は英国) を設置することが採決された。修正案の検討が行われている段階にある。

なお、日本提案で2017年5月にIS規格として成立したISO 1348 (薄刃ぜきによる開水路流量測定) については、2022年には刊行後5年を経過し、定期レビューに入る見込みとなっている。

(4) SC5 (測定機器とデータ管理) の動向

現在審議中の主な規格は以下の通り。

(a) 4373 (水位計測装置)

2008年版の定期レビューを受けて本ISを修正する検討が行われ、2020年11月にCDをDISとして審議することが採決された。現在、DISとして審議中である。

(b) 23350 (受水型雨量計)

新規ISとして策定検討が行われてきたが、現在FDISとして審議中である。

なお、日本提案で2016年2月にIS規格として成立したISO 24155 (水文観測データ伝送システム-仕様要件) については、刊行後5年を経過したことから、今後、定期レビューに入る見込みである。

(5) SC6 (土砂輸送) の動向

現在審議中の主な規格は以下の通り。

(a) 3716 (浮遊砂サンプラーの機能要件と特性)

ISO TS3716の2006年版について、IS化する方向で検討が行われてきたが、現在、DISとして審議中である。

→ 2021年10月、ISOとして承認された。

(5) SC8 (地下水) の動向

現在審議中の規格はない。

3. その他、特記すべき事項

TC113国内検討委員会の体制について、2020年11月に以下のような変更があった。

(a) 国内検討委員長の交代

TC113国内検討委員会の委員長について、元株式会社建設技術研究所の堀田哲夫氏が勇退し、国立研究開発法人土木研究所の深見が委員長に就任した。堀田哲夫氏の長年にわたるISO/TC113活動へのご尽力・ご貢献に対し、深甚なる謝意を表したい。

(b) SC6分科会委員の任命

TC113内の分科会のうち、長年委員が実質的に空席となっていたSC6の国内検討委員として、国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所の矢部浩規氏（座長）および巖倉啓子氏（委員）に新たに加わっていただいた。

SC8分科会の国内体制構築が依然として課題として残るが、それだけでなく、今後も委員の交代等が想定される中で、TC113活動を安定して継続的かつ適切に実施・支援していく体制・システムの確立が重要になると考えている。

（土木研究所 → FRICS 深見和彦）

ISO/TC113 国内検討委員会委員名簿（案）

（2021年 11月 1日現在）

敬称略

区分	氏名	所属
委員長	深見 和彦	(一財)河川情報センター 河川情報研究所 研究第1部長
SC1委員	山本 晶 主査	国立研究開発法人 土木研究所 水工研究グループ 水文チーム 上席研究員
	萬矢 敦啓	国立研究開発法人 土木研究所 水工研究グループ 水文チーム 主任研究員
SC2委員	石神 孝之 主査	国立研究開発法人 土木研究所 水工研究グループ 水理チーム 上席研究員
	宮川 仁	国立研究開発法人 土木研究所 水工研究グループ 水理チーム 主任研究員
	石堂 徹 (産業機械工業会)	荏原製冷熱システム株式会社 企画管理管轄 品質保証室長
SC5委員	中尾 忠彦 主査	(一財)河川情報センター 研究顧問
	前田 義明	(株)セレス 流速計試験所長
	(調整中)	(一社)建設電気技術協会
SC6委員	矢部 浩規 主査	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ長
	巖倉 啓子	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム 上席研究員
SC8委員	調整中	
事務局	柳川 博之	公益社団法人土木学会 技術推進課長
	黒木 隆宏	公益社団法人土木学会 調査役

インフラメンテナンス総合委員会報告

構成

委員長 谷口博昭(学会長)、幹事長 岩波光保(東工大)

総合委員会のもとに、「アクティビティ部会」、「知の体系化小委員会」、「健康診断小委員会」、「新技術適用推進小委員会」が設置・活動

R3年度の活動報告

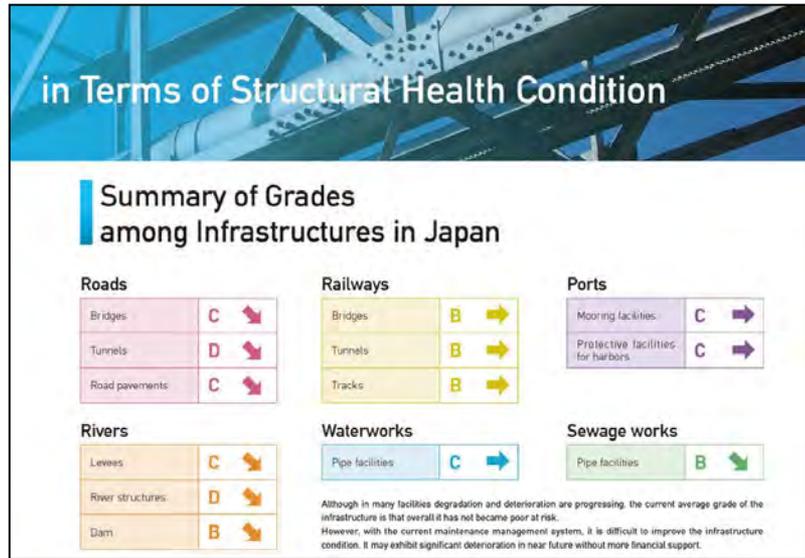
健康診断小委員会

インフラ健康診断書(2020.6, 道路, 鉄道, 港湾, 河川, 水道, 下水道)の英語版を公表(2021.9)

知の体系化小委員会

教材開発分科会:「はじめてのインフラメンテナンス講座(eラーニング教材)」の作成

知の体系化分科会:「他分野連携・異分野連携」の推進



Rivers Section

Rivers Section (Levees, River Structures and Dams)

	Grades			Maintenance system	
	Overall	By administration			
Levees	C	Central government	C	↓	
		Prefectures, etc.	C		
River structures	D	Central government	C	↓	
		Prefectures, etc.	D		
Dams	B	Civil engineering structures	Central government, Japan Water Agency	A	↓
			Prefectures	A	
		Mechanical and electrical equipments	Central government, Japan Water Agency	B	
			Prefectures	B	

令和3年度第2回海岸工学委員会報告

2021年11月10日(水)16:40~18:30 オンライン開催

■ 議事録確認

■ 第68回海岸工学講演会

2021年11月10日(水)~11月12日(金)

岐阜市・じゅうろくプラザ, 岐阜大学

→オンライン開催に変更

登録論文数: 258 編(過去3年: 306, 321, 312 編)

講演+特別号187編 講演のみ36編

CEJからの招待論文 1件

論文募集方法の変更

第1段階査読 アブスト査読(従来通り)

→特別号に論文投稿 フルペーパー査読

or CEJに掲載済みor講演会までに投稿

+講演会で発表(従来通り)

→Extended AbstractのみDVD収録

+講演会で発表(新規)

■ 第69回海岸工学講演会

2022年11月8日(火)~11月11日(金)

11/8はオンラインのみ11/9-11はハイブリッドを計画

横須賀市・ヴェルクよこすか

■ 第57回水工学に関する夏期研修会

9/5,6 東大・本郷キャンパス

■ Coastal Engineering Journal

2020 IF: 3.216 (2019 2.032) .

■ 研究小委員会等の活動について

■ 繰り越した予算の用途について

これまでの活動

2021年9月24日 15時30分～18時 キックオフサロン オンライン（限定公開）

2021年10月26日 16時～18時 第一回幹事会 オンライン（研究会内公開、大谷先生より議事録配信）

2021年12月21日 16時～17時 第二回幹事会 オンライン（研究会内公開）

2022年 2月8日 16時～19時 第一回研究会 オンライン

- ・有川主査
- ・有働副査

幹事が何人か選ばれている。

- ・小林幹事（水工との連携）
- ・中條幹事（気候変動、防災）
- ・大谷幹事（環境）
- ・澁谷幹事（企業現場対応）
- ・鈴木幹事（ヨーロッパとの連携）

「沿岸域における気候変動適応策に関する研究会」オンラインサロンの開催について

2021年8月24日

日時 9月24日 15:30-18:00 @オンライン

登録制（以下よりお願いします。当日の接続リンクが送信されます）

<https://us02web.zoom.us/meeting/register/tZEkc0murjoiEtEe18AK3LQ6p5RTz5y3RN7r>



題名：「沿岸域における気候変動適応策に関する研究会」第一回オンラインサロン

内容（仮題です）：

15:30-15:40

武若 聡 委員 元小委員長：開会のご挨拶とこれまでの委員会の経緯

15:40-16:05

森 信人 委員 元小委員長：気候変動のこれから

16:05-16:30

桑江朝比呂 委員 前小委員長：沿岸域でのカーボンニュートラル（ブルーカーボン）

16:30-16:55

安田誠宏 委員 前副小委員長：沿岸域の減災アセスメント手法

16:55-17:20

有働恵子 委員 研究会副主査：海面上昇と経済効果

17:20-17:50

パネル形式によるディスカッション（今後の方向性など議論）

17:50 閉会

ご質問等ございましたら、有川太郎（主査）までお願いいたします。

taro.arikawa.38d@g.chuo-u.ac.jp

研究会の主旨と社会的背景

1972年に出版された報告書「成長の限界 (The Limits to Growth)」は、1970年に設立されたローマクラブの依頼を受けたMITのグループがまとめたものである。当時、天然資源の枯渇化、公害による環境汚染の進行、発展途上国における爆発的な人口の増加、軍事技術の進歩による大規模な破壊力の脅威などによる人類の危機の接近に対し、人類として可能な回避の道を真剣に探索することを目的とした。

その過程で得られた一つの重要な示唆は、地球を一つのシステムとして捉え、そのシステムの長期的動向に与える影響を検討し、長期的な目標を定めて、世界全体でその目標に対して努力をする必要があるということを示した点だと考えられる。その流れは、国連における2000年9月に採択されたMillennium Development Goals (MDGs)、そしてその後継となる持続可能な開発 (SDGs) のための2030アジェンダ (通称、SDGs や2030アジェンダ、2015年9月採択) と続く。2030アジェンダにおいては、経済、社会及び環境の三側面を調和させるということが一つの大きな目標となっている。

Human Securityの視座から、UNDP(1994)は、人間の安全保障を脅かす主体が戦争のような破滅的な脅威から、仕事や収入、健康、環境、犯罪といった日常的な不安へと変化していることを述べ、その対象が個人や地域、国家にとどまらず、グローバルとなっていると指摘している。それをうけて、緒方貞子氏とアマルティア・セン氏が委員長を務めた「人間の安全保障に関する独立委員会」では、人間の安全保障は公共財であり、国家と国際社会が一体となって脆弱な状況にある人々を保護し、援助する必要があることを指摘している(2003)。そして2012年、UN Resolution A/RES/66/290により人間の安全保障(Human Security)は “the right of people to live in freedom and dignity, free from poverty and despair. (人々が貧困や絶望から解放され、自由と尊厳の中で生きる権利)” と定義される。

少し視点は変わるが、宇沢弘文博士による「社会的共通資本」の定義には、
『ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的に維持することを可能にするような自然環境や社会的装置』
とあり、「沿岸域」は、まさに社会的共通資本の一つであると捉えることができる。そのなかで「ゆたかな経済生活」については、大規模自然災害等に備えるため、事前防災・減災と迅速な復旧復興に資する施策を、まちづくり政策や産業政策も含めた総合的な取組として計画的に実施し、強靱な国づくり・地域づくりを推進するものである、国土強靱化基本計画(2018年12月)が推進されている。一方、沿岸域には、すぐれた文化の展開、魅力ある社会の維持という可能性が備わっており、安全を確保しながらも、人々の生活に活力を与えうる存在であると確信する。

このような社会的背景・要請のなかで、今後、さらなる気候変動にさらされる可能性のある沿岸域は、どうあるべきだろうか？ どのような適応策が現在可能であり、未来において、どのような技術的ロードマップを描いていくことが可能なのだろうか？

沿岸域のありたい将来を議論し、現状の技術や適応策のリストを整理するとともに、バックキャストしながら、技術・適応策のロードマップを描いていくこと、それが本研究会の主旨となる。

将来については、2050年、従って30年後程度先を念頭に考えていければと期待する。

「沿岸域における気候変動適応策に関する研究会」設置提案書

1. 設置主旨

本研究会は、2016年に設置された「沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会」を継続する研究会として設置を希望する。

当該小委員会では、沿岸域における気候変動に関する研究は、気象、海洋物理・化学・生物、生態学、政策学、経済学など、非常に多岐にわたるため、様々な研究プロジェクトや学術分野あるいは学会において進められている。そこで、現状進められているプロジェクトを整理し、関連図を作成し、報告書にまとめるとともに、今後重点的に取り組むべき課題として、研究者が具体的にどのような学術分野、自然現象や人間活動への影響、現状把握や将来予測、緩和・適応策に関心を抱いているのかについてアンケートを行い、その結果を土木学会論文集にとりまとめた。

一方で、それらを通して、国内の沿岸域における気候変動対応における関心は、自然現象や人間活動への影響へ集中しており、緩和・適応策に対する課題認識は、まだ低いことが示された。今回提案する研究会では、この問題の解決に向けて、港湾域、沿岸域におけるカーボンニュートラルと適応の両立について議論することを目的とする。

2. 設置期間

本研究会の設置期間は、設置承認日から、2ヶ年を目処とする。

なお、設置期間を延長する場合には、海岸工学委員会幹事会及び同委員会で審議の上、承認を得る。

3. 期待される成果

前身の小委員会では、現在もしくは過去に行われた研究プロジェクトや、気候変動対応における関心を明らかにすることで、沿岸域における気候変動に対する取り組む方向性の現状と課題を提示した。その小委員会を継続する本研究会では、沿岸域のカーボンニュートラルの評価手法の検討ならびに適応策に対するリスト化を目指す。そのうえで、沿岸域の関係者で共有できるオープンプラットフォームを構築し、その合意形成を図るための科学的助言の提供につなげていくことが期待される。

4. 成果の公表(案)

本研究会で検討した成果については、主に論文発表等研究発表の場を通じて公表する。また、シンポジウムやワークショップなどを通して、その活動成果を報告する。

5. 研究会名称およびメンバー

前身の小委員会の名称を一部改称し、委員は継続することを希望する。

研究会名称

沿岸域における気候変動適応策に関する研究会

研究会メンバー構成（案）

有川太郎	中央大学（主査 兼 世話人）
石川洋一	海洋研究開発機構
有働恵子	東北大学（副査）
鶴崎賢一	群馬大学
加藤史訓	国土技術政策総合研究所
長谷川夏樹	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所
金洙列	熊本大学
桐博英	農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
久保田真一	不動テトラ
倉原義之介	東亜建設工業株式会社 技術研究開発センター
桑江朝比呂	港湾空港技術研究所
小林健一郎	神戸大学（土木学会水工学委員会）
篠原瑞生	東京海上日動リスクコンサルティング
澁谷容子	東洋建設
志村智也	京都大学
清野聡子	九州大学
武若聡	筑波大学
辻尾大樹	パンフィックコンサルタンツ
二宮順一	金沢大学
羽角華奈子	大成建設
伴野雅之	港湾空港技術研究所
古市尚基	水産研究・教育機構水産技術研究所
三戸勇吾	復建調査設計
茂木博匡	港湾空港技術研究所
森信人	京都大学
安田誠宏	関西大学
李漢洙	広島大学

以上

インフラ体力診断小委員会

委員長 家田仁（政策大学院大学, 108 代土木学会会長）

委員 谷口博昭（土木学会会長）

委員 上田多門（土木学会次期会長）

委員 道路 WG 主査 岸 邦宏（北海道大学）

委員 河川 WG 主査 二瓶泰雄（東京理科大学）

委員 港湾 WG 主査 柴崎隆一（東京大学）

幹事 塚田幸広（土木学会）

幹事 中島敬介（土木学会）

道路 WG 今西芳一（公共計画研究所）

福田大輔（東京大学）

河川 WG 山田朋人（北海道大学）

佐山敬洋（京都大学防災研究所）

港湾 WG 川崎智也（東京大学）

協力

国土交通省 大臣官房

国土交通省 水管理・国土保全局（河川 WG）

国土交通省 道路局（道路 WG）

国土交通省 港湾局（港湾 WG）

- ①「体力診断」第一弾公表
- ②研究討論会

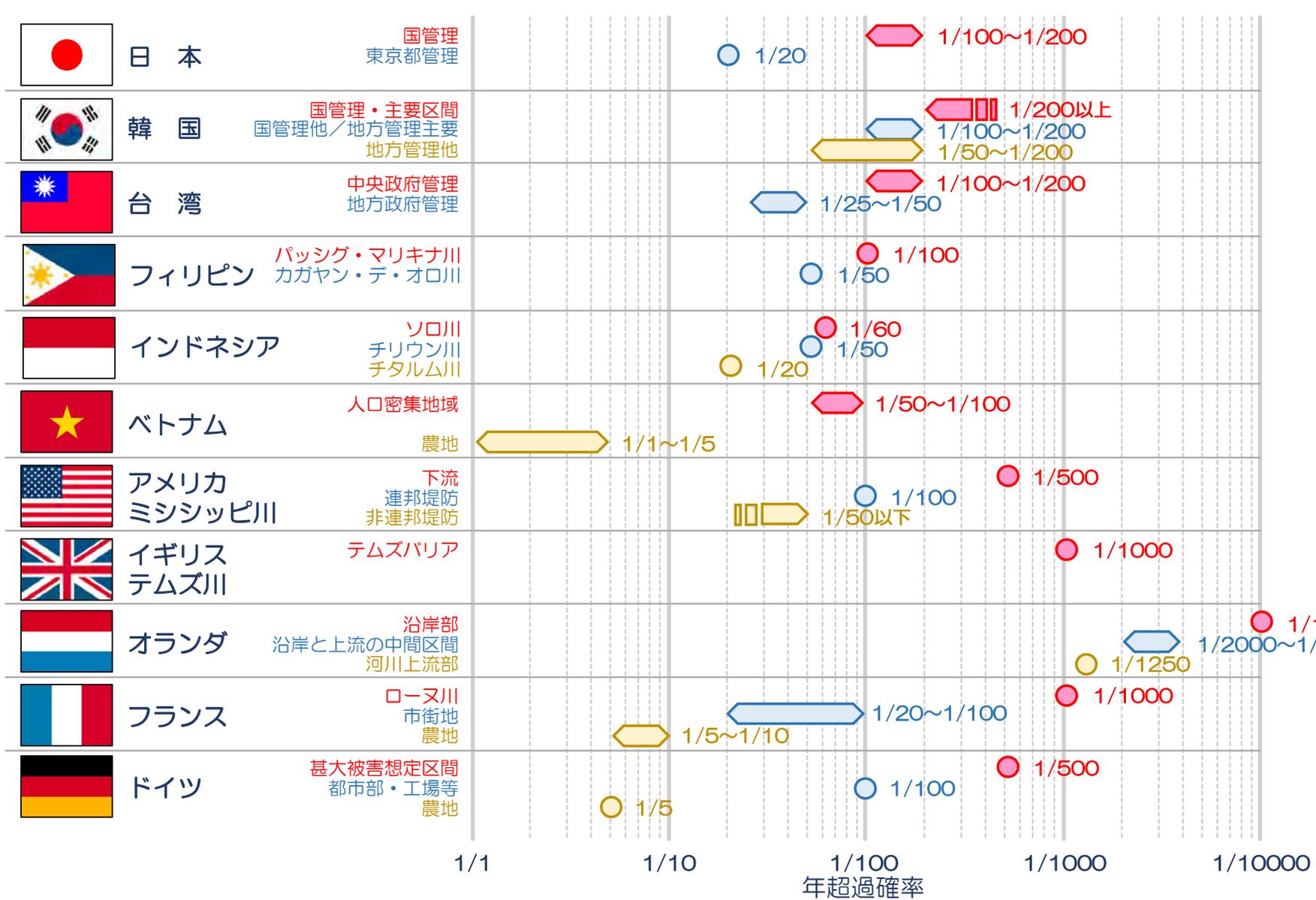
日本のインフラ 体力診断

～道路・河川・港湾～

2021年9月



3. 整備水準及び計画目標の国際比較：計画目標



計画規模 (最大値)

欧米：1/500以上
(最大：オランダ 1/10000)

↓

日本・韓国・台湾：1/200

↓

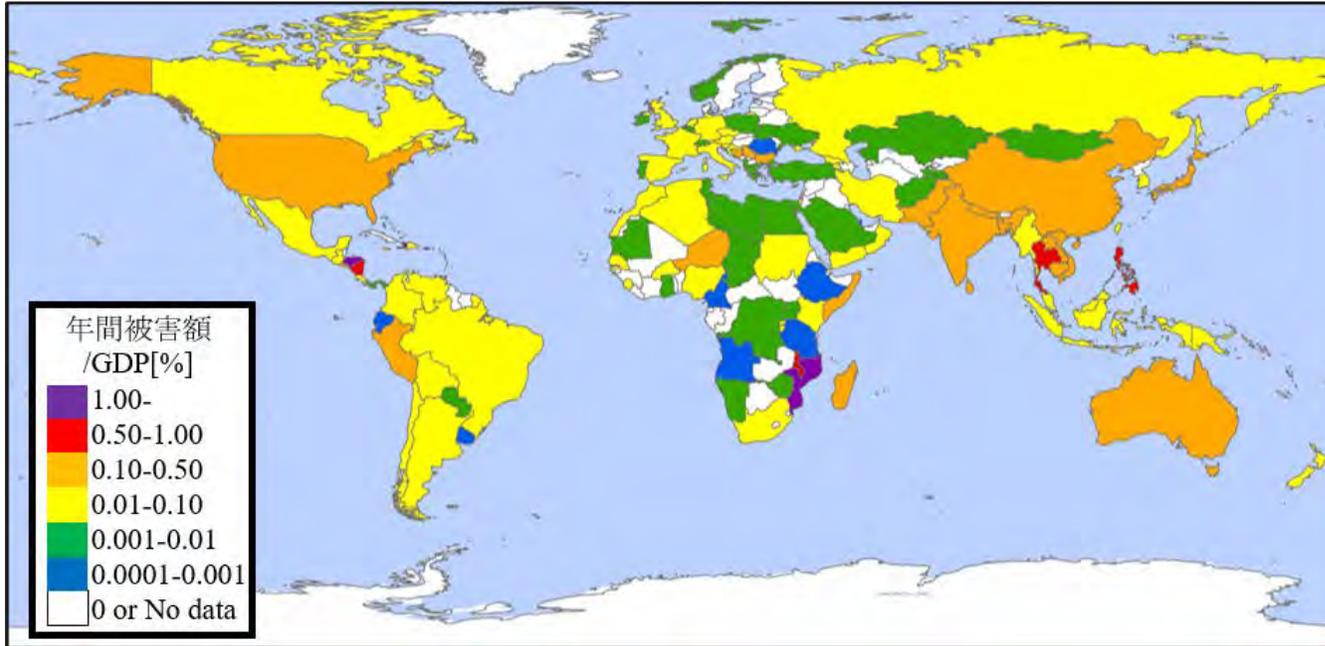
東南アジア：1/60-1/100

地方管理河川

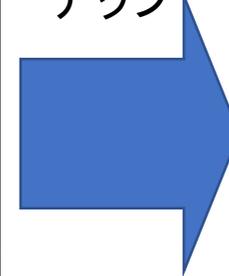
韓国：1/100-1/200
台湾：1/25-1/50
東京：1/20

3. 整備水準及び計画目標の国際比較：水災害被害

④GDP当たりの年平均被害額



主要国
ピックアップ



国または地域	年被害額/GDP [%]	順位	
		世界	OECD
タイ	0.780	13	
フィリピン	0.515	15	
インド	0.262	25	
アメリカ	0.233	27	1
日本	0.145	35	2
中国	0.139	38	
カナダ	0.069	49	6
ドイツ	0.056	54	8
インドネシア	0.051	58	
イギリス	0.027	70	11
イタリア	0.026	72	12
フランス	0.025	73	13
韓国	0.017	83	17
台湾	0.013	86	
オランダ	0.011	91	19

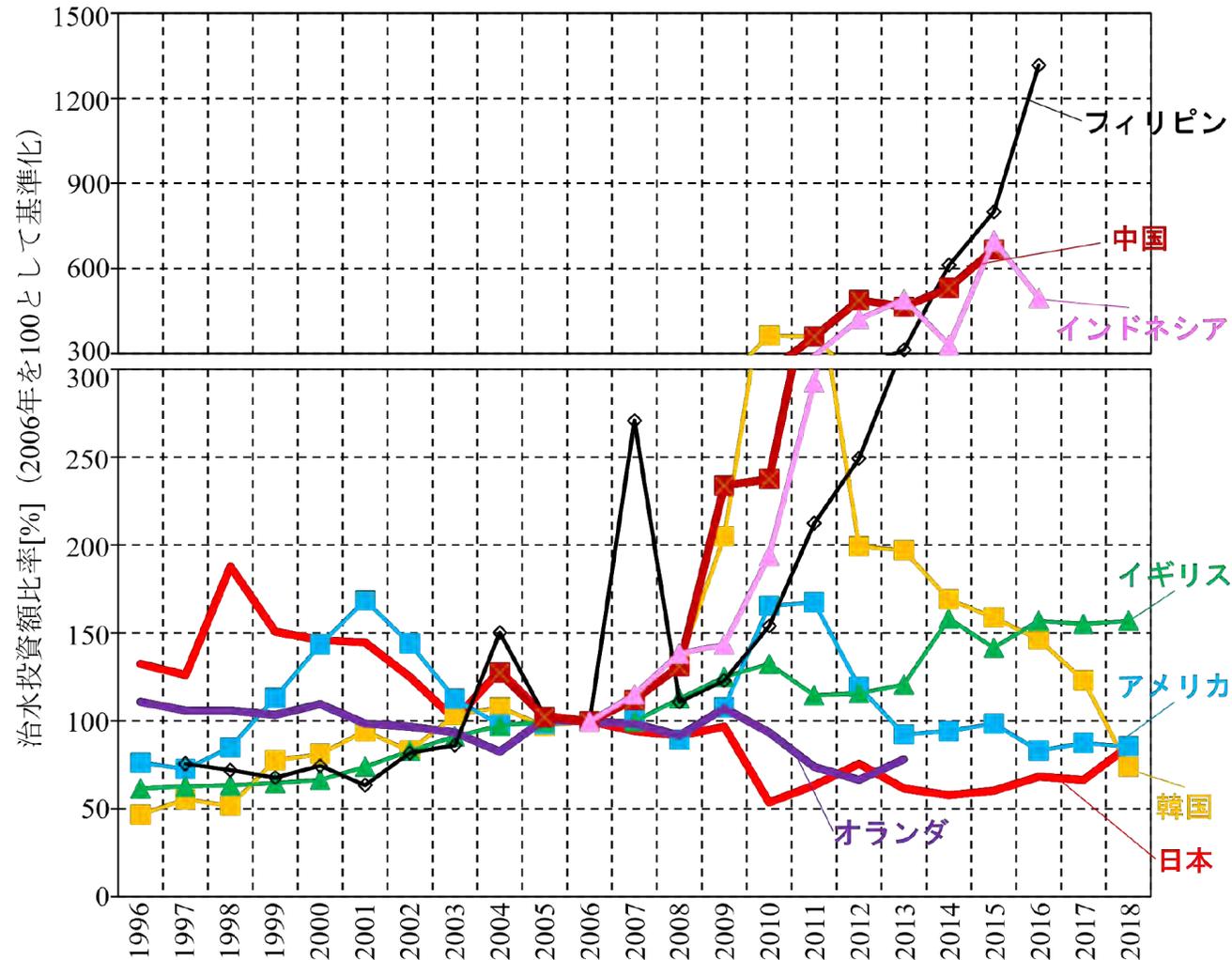
- ・日本：世界35位，OECD加盟国・G7 2位
- ・日本はG7のヨーロッパ諸国や韓国・台湾を上回る。

GDPは2019年時点

水災害による死者数や被害額では，日本はG7やOECD加盟国で世界ワーストクラス。アジア諸国，特に韓国や台湾よりも大きな被害を受けている。

4. インフラの質的評価：治水投資額

治水投資額の推移



全対象国のデータが揃う2006年を100として基準化。
デフレーターにより物価影響を補正済。

- 日本以外の多くの国は、長期的に見て治水投資額を維持もしくは増加
- 特に、水害被害の大きなアジアではこの10年でより大きく増加させている



- 日本では、水災害による被害が顕著であるにもかかわらず、治水投資額が増えていない。

河川懇談会メンバー

(学識者)

赤松 良久 山口大学
 内田 龍彦 広島大学
 有働 恵子 東北大学
 沖 大幹 東京大学
 音田 慎一郎 京都大学
 風間 聡 東北大学
 鼎 信次郎 東京工業大学
 川池 健司 京都大学防災研
 小林 健一郎 神戸大学
 佐山 敬洋 京大防災研
 山上 路生 京都大学
 清水 義彦 群馬大学(副座長)
 角 哲也 京大防災研
 田島 芳満 東京大学
 立川 康人 京都大学
 田中 賢治 京大防災研
 田中 規夫 埼玉大学
 戸田 祐嗣 名古屋大学
 中北 英一 京大防災研(座長)
 中山 恵介 神戸大学
 二瓶 泰雄 東京理科大学(幹事長)
 平林 由希子 芝浦工業大学
 溝口 敦子 名城大学

宮本 仁志 芝浦工業大学
 森 信人 京大防災研
 森脇 亮 愛媛大学
 安田 浩保 新潟大学
 矢野 真一郎 九州大学
 山口 弘誠 京大防災研
 山崎 大 東京大学
 山田 朋人 北海道大学
 芳村 圭 東京大学
 渡部 哲史 京大防災研
 渡邊 康玄 北見工業大学

(行政側)

現在調整中

「第9回流域管理と地域計画の連携方策に関するワークショップ」

【プログラム】

- ◆日 時： 令和3年12月1日（水）14:00～17:00
 ◆場 所： WEB オンライン開催
 ◆主 催： 土木学会 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会、
 河川懇談会、水工学委員会、土木計画学研究委員会
 国土交通省

土木学会継続教育 (CPD) プログラム：認定番号 JSCE21-1370、単位数 2.5 単位

- ・司会進行：小委員会委員長 京都大学大学院 教授 立川 康人

1. 開会（14:00～） 10分

- 開会挨拶 小委員会委員長 京都大学大学院 教授 立川 康人
 河川懇談会座長 京都大学防災研究所 所長 教授 中北 英一

2. 基調講演（14:10～） 40分

- 「R3年六角川氾濫の状況とこれからの流域対策について」
 佐賀大学 教授 大串 浩一郎

3. まちづくりや土地利用と連携した流域治水の実践（14:50～）60分

- 1) 各地での流域治水の取組について 10分
 国土交通省水管理・国土保全局治水課技術調整官 安井 辰弥
- 2) 水災害リスクを踏まえた防災まちづくりガイドライン 10分
 国土交通省都市局都市計画課土地利用調整官 原田 佳道
- 3) 総合治水・雨水対策とNCCのまちづくりの推進（仮） 10分
 宇都宮市建設部河川課 課長 菅原 秀雄

総合討議① 30分

- ・コーディネーター：小委員会幹事長 熊本大学 准教授 田中 尚人

～ 休憩 10分 ～

4. これからの流域治水の取組に向けて ～河川砂防技術開発公募制度～（16:00～）50分

- 1) 河川砂防技術開発公募制度の概要 5分
 国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 河川情報企画室 室長 青野 正志
- 2) 車両通行情報を活用した洪水氾濫モニタリングシステムの構築
 （河川砂防技術研究開発公募研究） 10分
 東京理科大学 教授 二瓶 泰雄
- 3) 菊池川流域における日本遺産を核としたかわまちづくり文化の再興
 （河川砂防技術研究開発公募研究） 10分
 熊本大学 准教授 田中 尚人

総合討議② 25分

- 司会： 小委員会委員長 京都大学大学院 教授 立川 康人

5. まとめ、閉会（16:50～） 小委員会委員長 京都大学大学院 教授 立川 康人

参加者：

岡田（高知高専）、田村（徳島大）、山中（徳島大）、荒木（阪大）、
橋本（東北大）、下園（東大）、小田（千葉工大）、張（熊大）

第56回水工学に関する夏期研修会

主催：公益社団法人 土木学会 (担当: 水工学委員会, 海岸工学委員会)
後援：公益社団法人 土木学会 四国支部
期日：2021年8月30日(月)～31日(火)
担当：高知大会実行委員会

実施報告



実施概要

- **開催日**：2021年8月30日、31日
- **会場**（Zoomウェビナーオンライン）
- **受講料** 1コースにつき、一般16,000円、学生・院生10,000円（いずれも講義集代を含む）
- **参加者**（講師・運営スタッフ除く）
 - 合計204名
 - Aコース105名（一般81、学生24）
 - Bコース99名（一般80、学生19）
- **実行委員会**
 - 岡田（高知高専）、森脇（愛媛大）、田村（徳島大）、山中（徳島大）、張（熊本大(元高知大)）、荒木（大阪大）、橋本（東北大）

Aコース（河川・水文） [行事コード] 2321021

Bコース（海岸・港湾） [行事コード] 2321022

《総合テーマ》：「激甚化する豪雨災害に備える河川技術」

《総合テーマ》：「海岸災害対策におけるこれからの論点と適応技術」

■ 8月30日（月）

Aコース（河川・水文）		Bコース（海岸・港湾）	
9:00-10:30	那須清吾（高知工科大学・教授，副学長）：気候変動の地域影響予測と適応政策の在り方		
10:45-12:15	森脇亮（愛媛大学・教授）：平成30年7月豪雨後の愛媛県における防災・復興・流域治水の取り組みについて	10:45-12:15	佐藤慎司（高知工科大学・教授）：UAVを用いた海岸情報マッピング技術
13:15-14:45	田中茂信（京都大学・教授）：治水計画の変遷と降水量極値の変化	13:15-14:45	福谷陽（関東学院大学・准教授）：確率論的津波ハザード評価とその利活用
15:00-16:30	清水義彦（群馬大学・教授）：激甚化する洪水氾濫災害から学ぶ水工学の課題	15:00-16:30	相澤幹男（四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所・所長）：高知港海岸における三重防護による地震・津波対策について

■ 8月31日（火）

Aコース（河川・水文）		Bコース（海岸・港湾）	
9:00-10:30	磯部雅彦（高知工科大学・教授，学長）：高潮の基礎と防災の枠組み		
10:45-12:15	米山望（京都大学・准教授）：2DH-3D解析を用いた都市域における津波複合災害予測手法とその適用例	10:45-12:15	河野達仁（東北大学・教授）：海岸河川防災計画における経済学手法の適用:土木技術者Dupuitの分析を現在に活かす
13:15-14:45	中村圭吾（土木研究所・上席研究員）：河川における新しい技術の導入～革新的河川技術プロジェクトから大河川の多自然川づくりまで～	13:15-14:45	富田孝史（名古屋大学・教授）：津波，高潮・高波に対する防災・減災のこれまでとこれから
15:00-16:30	一言正之（日本工営株式会社中央研究所・課長）：河川・水防災におけるAI技術の活用	15:00-16:30	馬場俊孝（徳島大学・教授）：分散性を考慮した津波伝播計算 85

プログラム

2021年度（第56回）
水工学に関する夏期研修会講義集

A コース

Lecture Notes of the
56th Summer Seminar on Hydraulic Engineering, 2021
Course A

土木学会
水工学委員会・海岸工学委員会
Committee on Hydrosience and Hydraulic Engineering,
Coastal Engineering Committee,
JSCE

2021年8月
August 2021

2021年度（第56回）
水工学に関する夏期研修会講義集

B コース

Lecture Notes of the
56th Summer Seminar on Hydraulic Engineering, 2021
Course B

土木学会
水工学委員会・海岸工学委員会
Committee on Hydrosience and Hydraulic Engineering,
Coastal Engineering Committee,
JSCE

2021年8月
August 2021



高潮の基礎と防災の枠組み

高知工科大学
学長 磯部雅彦

開始までしばらくお待ちください (5)
Aコース (河川・水文)

アンケートへのご協力をお願い

接続解除された際に、アンケートフォームが表示されますので、ご協力のほどお願いいたします。

※アンケートへのご回答は1回で結構です。

第56回水工学に関する夏期研修会

面は治水の基礎体力として早期な達成が必要で
べた。

そして、そこには、投資と時間の課題だけでなく、
水工学的にも解決しなければならない課題がある。

整備効果を維持できるための水工学的な課題もある。

河川の計画は河道の器（固定）と水だけ議論されているが、

洪水、土砂輸送、流木、河道内樹林、河川構造物などが
相互に影響しあった移動床過程（災害過程）の解明は、
実務としての要請はもちろん、基礎研究として魅力を感じます。

災害調査から研究へ

土木学会水工学委員会水害対策小委員会 災害調査団報告書
<https://committees.jsce.or.jp/hydraulic05/node/23>
令和元年台風19号豪雨災害調査団報告書



収支：大きな黒字・赤字なし

土木学会 行事に関する《報告》書

1	開催行事名	第56回水工学に関する夏期研修会Aコース、Bコース					
	行事No.:	2321021(Aコース), 2321022(Bコース)					
2	担当委員会名	水工学委員会、海岸工学委員会					
3	開催期日	a. 2021年8月30日(月)～8月31日(火)		b. 平成 年 月 日～ 月 日			
4	開催場所	a. オンライン (Zoom Webinar)		b.			
5	参加者数	204					
6	参加費	b:テキスト代含む					
7	テキスト代	b:参加費に含む					
8	テキスト印刷・販売	印刷総部数	贈呈部数	参加者引換部数	著者引換部数	当日販売部数	残部数
		360	17	203	28	0	112
10	テキスト形式	版	A4	ページ数	A(142)+B(161)		
9	出版会計書籍の使用	a:無					

※拡充支援金の計算時には出版会計書籍の買上費に関しては収支には含みません。

※行事報告書提出期日：行事終了日より原則3カ月以内に提出すること。

◇収入の部

単位:円

会計科目	項目	金額	算出根拠
事業収益	1 会員非会員 参加費 Aコース	1,296,000	@ 16,000 円 × 81 名
	2 学 生 参加費 Aコース	240,000	@ 10,000 円 × 24 名
	3 会員非会員 参加費 Bコース	1,264,000	@ 16,000 円 × 79 名
	4 学 生 参加費 Bコース	200,000	@ 10,000 円 × 20 名
	5 当日分 テキスト代	0	@ 6,500 円 × 0 冊
	6 事前事後分 テキスト+発送代	0	@ 7,000 円 × 0 冊
	7 その他収入 a. ()		
	8 その他収入 b. ()		
	事業収益合計A	3,000,000	
寄付金等	9 寄付金等()		
	寄付金等合計B	0	
	収入合計	3,000,000	

◇支出の部

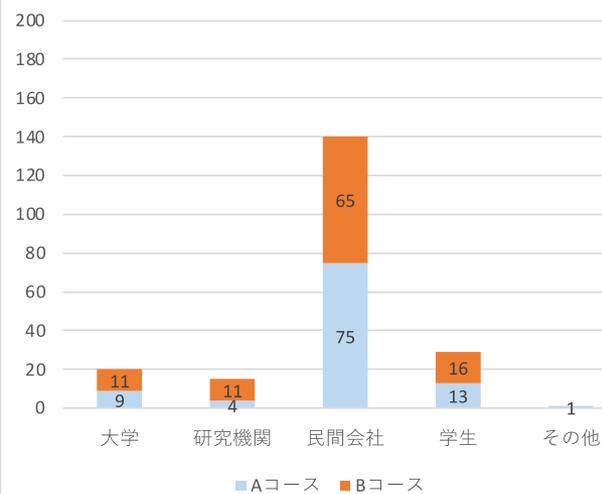
会計科目	項目	金額	算出根拠
臨時雇人給	1 アルバイト代	34,000	岡田先生, 荒木先生, 橋本先生
旅費交通費	2 講師・司会者への旅費		
	3 会議旅費・職員旅費		
備品消耗品費	4 受付用文房具・会場看板など		
発送・通信費	5 通信費・連絡費など		
手数料	6 各種手数料(振込手数料等)など		
賃借料	7 会場使用料	27,940	Zoom Webinar
	8 付属備品使用料		
	9 その他賃借料		
会議費	10 講師・司会・委員等の打合会議費		
広報宣伝費	11 ポスター作成費		
報告書等製作費	12 テキスト発行費・発送費	526,581	A,Bコース 各180部 (発送費込)
図書等仕入費	13 テキスト買上費		
	14 テキスト以外の教材費		
謝金・賞金	15 講師・司会者への謝礼金	678,708	講演料(コース15000円, 共通35000円)・原稿料(35000円)・相簿料等は受け取らない
	16 その他()		
システム等使用料	17 投稿システム等使用料		
事業諸経費	18 その他支出 a.(修了証)	39,600	修了証(A180, B180)の作成・印刷
	19 その他支出 b.()		
	20 その他支出 c.()		
	21 予備費		
	支出合計	1,306,829	
	管理費相当額 A	900,000	事業収益合計Aの30%
	管理費相当額 B	0	補助金等合計Bの5%
	収支差額	793,171	

備考:参加人数A(一般81+学生24), B(一般79+学生20)

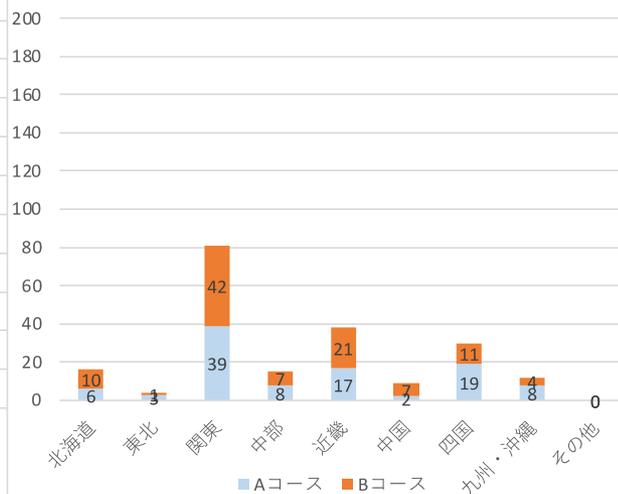
収支報告

アンケート結果

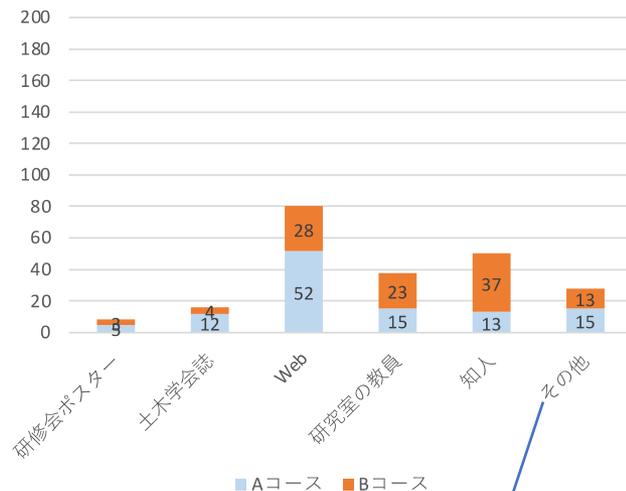
1. あなたの職場は？



2. あなたのお住まいの地方は？



3. あなたはどのような方法で本研修会を知りましたか
(複数回答可)



その他

- ・メールングリスト
- ・会社の上司の紹介
- ・部内の紹介
- ・過去にも参加したことがあったため

・民間会社からの参加が主である

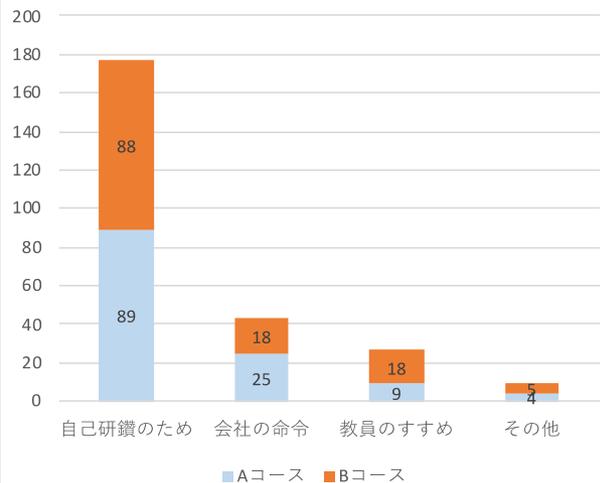
・関東、近畿について四国からの参加者数が多かった
(実行委員会の努力)

・情報伝達経路はさまざま

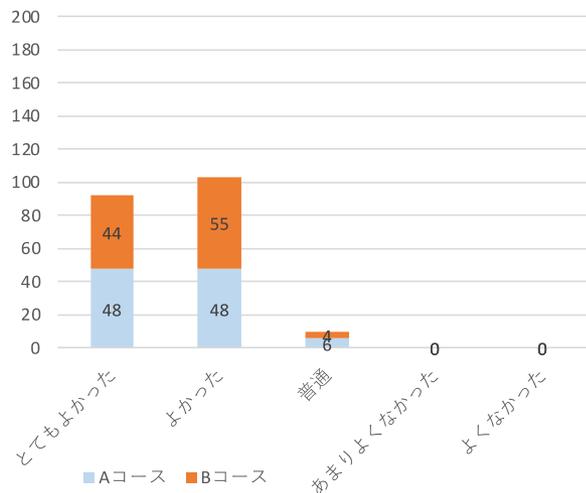
・Bコースは知人からの紹介が有効？

アンケート結果

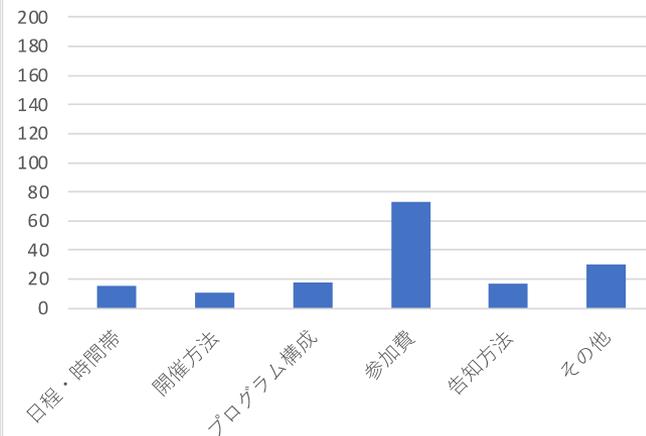
4. 研修会に参加された理由は（複数回答可）



5. 研修会に参加して、よかったですか



6. 今後、改善した方が良いと思われる項目があれば教えてください（両コース合計）



その他

- ・研究などの情報収集のため
- ・現在行っている卒業研究の内容とリンクする発表があったため
- ・河川技術に関する最新の知見を得るため

その他

- ・改善点はないと思います。
- ・オンライン講習会における質問の仕方
- ・講演によっては難解で、理解がほとんど追いつかなかったため、基本的内容からご説明いただければ有難かったです。

・概ね好評であった

・改善すべき点として、参加費に対する意見が多かった

研修会の改善について、ご提案があればご記入ください。

Aコース

- 全体的にスムーズな進行で良かったと思います。
- 数式の説明に入ると学生だとわからなくなり、ついていけなくなりました。反対に、概要などについての説明は興味を持って聞くことができました。
- ビデオ等で数日間視聴できるようにしてほしい。
- 水工学論文の提出後以外の期間に開催していただけると良いと思います。
- 今回はオンラインセミナーであったことが非常にありがたい。今後もオンラインでの開催が主流になってくれることを願っています。**講義集を電子データ**いただければ、冊子の配布が無くてよいと思うので、参加費がもう少し下がるとありがたいです。
- 業務との兼ね合いや、長時間視聴による疲労や集中力の低下を考えると、半日の日程を2日程度としていただきたい。オンライン参加は、参加しやすく利便性が非常に高いと感じた。オンライン開催であれば、テキストの印刷費をPDFとして削減し、**参加費を現状の半額以下**にいただければ、参加しやすいと思う。
- 河川と海岸で相互に資料を参照出来るようにしてほしい

Bコース

- 河川・水門と海岸・港湾にコースが分かれているが、受講者の興味に応じて**コースを横断して受講**できるようになれば良いと思った。
- テーマは技術の応用面であるが、学問分野としての基礎を1日1講義でよいから入れると、基礎知識に乏しい学生にも有用な研修会になると感じました
- チャット機能を活用した質問も有用な点はありますが、質問内容を講師に理解してもらったり、あるいは議論する際には音声によるコミュニケーションが有用であるように思います。質問の仕方のルールを決めたうえで、**音声による質問ができる**とよいように思いました。
- 参加費が一般で16,000円が**少し高額**であると感じた。発表内容がパワーポイントで表示されるのであれば、詳細を知りたい方のみに冊子を販売するなど、選択肢がほしいと思う。
- **平日より土日**ですとありがたいと思いました。
- 現在子育てと両立をしながら仕事を行っているのですが、急に受講ができなくなった場合も考慮し、サイトを有料化(会費分の有料)して、開催日時関係なく、**一定期間内いつでも見られるようなもの**ができると助かります。
- できれば**ウェビナー時点でスライドの資料**も欲しかった。

今後、取り上げてほしいテーマがありましたら、ご記入ください。

Aコース

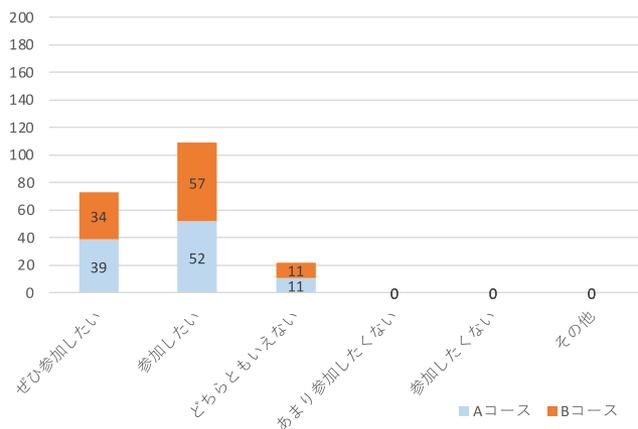
- 河川管理におけるAI技術の活用
- 流域治水を含む今後の河川計画のあり方について、各先生のそれぞれのお考えをお聞きしたいです。
- 今回の研修会を経て、ゲームエンジンによる仮想空間でのシミュレーションに興味を持ちました。
- 降雨予測、流出解析、氾濫解析の最新技術・研究
- 温暖化に対応する施設整備の考え方、事例等について
- 外力に対する複合的な対応事例の紹介 増加する外力に対して各地点(山、川、市街地、河口)における複合的な対策により被害を軽減した事例があれば紹介いただきたいです。
- CIM関連 ・ 遊水地関連
- 流域治水と降雨増加傾向
- 複合災害、IRICでできること及び使い方
- 今更だけど合意形成の問題とか

Bコース

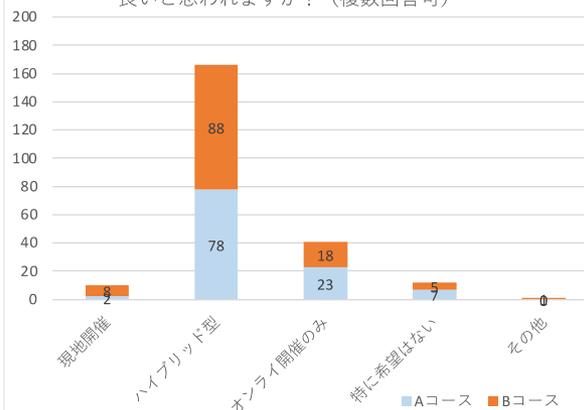
- 砂浜の海岸保全施設指定について、何をもってどの程度の範囲の砂浜を保全施設として指定するのか。あまり事例が見当たらないため、事例等があれば話を聞いてみたい。
- 気候変動の影響を踏まえた防災・減災対策について、各分野の取り組みまたは分野横断的な取り組み等
- 最先端の技術を活用した内容についても、引き続き取り上げていただければ幸いです。
- 粒子法
- 流域治水 ・ 養浜

アンケート結果

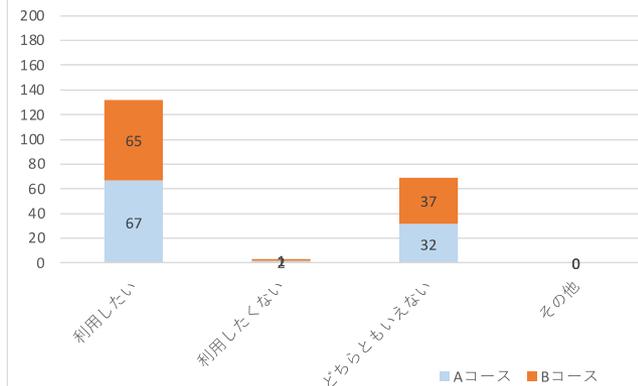
9. 今後の講習会にも参加したいと思いますか？



10. 開催方法についてお尋ねします。どの開催方法が良いと思われますか？（複数回答可）



11. オンライン開催の際に、グループ申し込み（複数人用の一括申し込み、割引あり）があれば利用されますか？



ハイブリッド型への要望が高い。参加費が安くなるグループ割へのニーズがある。

ご意見・ご感想・ご質問等がありましたら、ご自由にご記入ください。

Aコース

- ・ 来年は、若手社員に受講させたいと思います。ありがとうございました。
- ・ オンラインのため質問しやすかったです。一言先生の発表にあったように、若い研究者に向けてのアドバイスなどは、大変参考になりました。
- ・ リモート講演でさらに参加者も多いことから、一方的な聴講になってしまうのは仕方がないと思いますが、**二日間聞き続けるというのは中々難しかったです**。今後もリモートで行う予定がありましたら、例えば午前中だけにして4日間開催する等、分散していただけると、より集中して聞けると思いました。どれも貴重なお話だけに、途中で注意力散漫になって聞き逃してしまうことも多々あったので残念でした。(個人の問題も大いにありますが)
- ・ 基礎から最新の知見まで、長い時間をかけて丁寧にご講演いただき大変勉強になりました。ありがとうございました。

Bコース

- ・ **分野横断的な構成で非常に面白かった**です。
- ・ 研修会は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ **web開催で参加しやすかった。今後も引き続き行ってほしい。**

少し残念

はじめての高知開催なのに
高知の地域活性化に貢献で
きななかった

当初の開催計画

2019年12月までに

- ・会場と日程の検討
- ・テーマ，講師，組織委員会

2020年

3月

- ・印刷業者との打合せ（3/3）
- ・開催日及び開催地の公開
- ・講演題目（3月か4月）と原稿作成(6月末)依頼

4月

- ・プログラムの作成と広報
- ・予算計画，人員配置，開催詳細計画

5月

- ・7月号学会誌の会告入稿作業（5月上旬）

6月

- ・CPDプログラム申請
- ・Webの事前参加申込ページの設定（HP会告が必要）
※事前参加は請求書払いのみ、現金払いは当日のみ

7月

- ・論文集の編集
- ・行事計画書の作成（合わせて収入・支出の確認と精算方法の確認）
- ・講師への謝金や交通費有無の確認
- ・講師派遣依頼状（所属先や所属長への派遣依頼）の発行の確認 ※必要な方のみ
- ・会場とのやりとり開始（受付，荷物，アルバイト，支出精算方法の確認など）

8月

- ・行事計画書の作成（合わせて収入・支出の確認と精算方法の確認）

9月 - 10月

- ・講師への謝金や交通費の支払い確認
- ・支出の精算の確認
- ・行事報告書の作成

実施経緯（1/2、2020年度）

- 2019年5月 高知開催決定
- 2019年9月 会場・日程検討（岡田、山中、林、張）
- 2019年10月-12月 テーマ・講師選定（岡田、森脇、山中、張）
- 2020年2月-3月 会場下見、印刷業者（山中、張）
- 2020年3月 講演題目決定、執筆依頼（岡田、山中、張）
- **2020年4月 延期決定（岡田、森脇、山中、張）**
- 2021年1月 オンラインを検討（岡田、森脇、山中、張）
- 2021年2月 オンラインを決定
- 2021年3月 日程調整（岡田、山中、張）
- 2021年4月 講演題目決定、執筆依頼（岡田、山中、張）

実施経緯（2/2、2021年度）

2021年度四国支部幹事 森脇先生→田村先生

- 2021年4月 組織委員会（岡田、田村、山中、張）
- 2021年5月 学会誌会告準備
- 2021年6月 組織委員会（岡田、田村、山中、張）
ML広報、CPD申請、HP公開
- 2021年7月 組織委員会（岡田、田村、山中、林、張）
荒木、橋本先生が加える
- 2021年8月 オンライン関係設定、確認、練習
資料集確認、発送
- 2021年9月-10月 謝金、個別対応、経理等（林、張）

水シンポジウム20201inぐんま 開催報告（理科大 二瓶）



- ・実行委員長 清水義彦（前水工学委員会委員長）
- ・水文部会（田中賢先生，鼎先生，芳村先生，平林先生）

プログラム

< 8月26日（木）シンポジウム > 会場：Gメッセ群馬

新型コロナウイルス感染拡大のため、Web配信のみの開催（出演者はZOOM）となりました。

【午前の部】

- 10：00 開会
- 10：35 特別講演 (30分)
- 11：15 基調講演 (40分)

【午後の部】

- 12：55 第1分科会 (80分)
- 14：25 第2分科会 (80分)
- 15：55 市民団体発表 (30分)
- 16：35 全体会議 (30分)
- 17：05 次回開催景挨拶 (10分)
- 17：15 閉会

【展示パネル紹介】

各休憩時間にご紹介します。
HPからもご覧いただけます。⇒



開会：実行委員会委員長挨拶、東渡挨拶（群馬県庁、群馬県立、群馬県立、群馬県立、群馬県立）

特別講演：「利根川水系の水災害と水源県ぐんまの役割」
講師：群馬大学大学院工学部環境工学部門 教授 清水 義彦氏

基調講演：「水のくに群馬-4つの顔-」
講師：高崎医科大学 特任教授 熊倉 浩幸氏

第1分科会：「（気候変動に備える）水源県としての治水：利水機能の役割」
コーディネーター：新 佐次郎（東京工業大学 教授）

パネリスト：熊倉 浩幸（群馬県立環境部 河川課長）
石橋 一幸（水資源機構下久保ダム管理所 所長）
山崎 弘明（水資源機構 利根川流域総合事務所 所長）
川原 泰樹（群馬県立総合技術学院 主任研究員）
芳村 幸（高崎大学 教授）
吉田 武郎（農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員）

第2分科会：「水迎の自然、暮らしと潤いのある空間、人とのつながり」

コーディネーター：平川 隆一（群馬県立大学 准教授）
パネリスト：丸野 啓之（群馬県立大学 准教授）
橋本 隆子（かんがえ水辺の環境保全協議会 会長）
黒田 マリ子（富士山麓環境文化協議会 事務局長）
小沢 久美（上毛新聞社 編集局長）

市民団体発表：「長野原町の魅力Wo・So・A・Do」
（一社）つなぐカンパニーがのほら 石渡 江里子、ワッドキヨキ

全体会議：各分科会まとめとメッセージ発信

コーディネーター：清水 義彦（第25回水シンポジウム2021inぐんま実行委員会 委員長）
パネリスト：藤 悠次郎（第1分科会コーディネーター）
平川 隆一（第2分科会コーディネーター）
二瓶 義雄（第25回水シンポジウム2021inぐんま実行委員会 企画部長）

次回開催景挨拶：山形 真

水資源機構代表 工藤 智（山形県農土整備課副課長 副所長）

< 8月27日（金）現地見学会 > 見学先：八ッ場ダム周辺

新型コロナウイルス感染拡大のため、中止となりました。

- ・緊急事態宣言中のため、完全オンライン開催
- ・二日目の現地見学会は中止

資料
2102-5



「利根川水系の水災害と水源県ぐんまの役割」

清水 義彦 氏

群馬大学大学院理工学府環境創生部門 教授

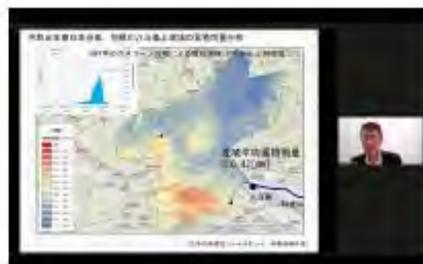
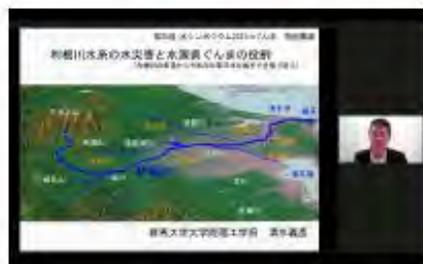
「第25回水シンポジウム2021inぐんま」実行委員会 委員長

■ 経歴

- 1985年 東京工業大学大学院理工学研究科修士課程土木工学専攻修了
- 1985年 京都大学工学部助手 (土木工学科)
- 1989年 愛媛大学工学部助手 (土木工学科)
- 1991年 群馬大学工学部助手 (建設工学科)
- 1994年 スイス連邦工科大学チューリッヒ校客員研究員
- 1995年 群馬大学工学部助教授 (建設工学科)
- 2009年 同教授
- 2014年 群馬大学大学院理工学府環境創生部門教授 (現職)

■ 学会・社会活動等

- 社会資本整備審議会河川分科会専門委員、同環境部会委員
- 国土交通省関東地方整備局河川技術懇談会委員
- 群馬県河川整備計画審査会長
- 群馬県環境審議会委員



「(気候変動に備える) 水源県としての治水・利水機能の役割」

近年、観測記録を更新するような降雨現象が各地で頻発しています。2019年の台風19号では12時間雨量の観測記録がアメダス1,291地点中120地点で更新され、複数の河川で甚大な被害が発生しました。また、治水施設がその能力の限界を発揮して、何とか被害を回避した事例も増えてきています。

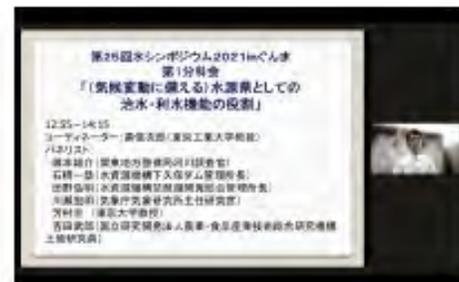
一方、暖冬による雪不足に起因する春濁水が各地で頻発しており、ダムに対する利水への期待も依然として大きいものとなっています。今後気候変動の進行に伴い洪水・濁水現象がさらに激化・長期化し、水管理施設の能力を超える状況がこれまで以上に発生することが予想されます。

我が国最大の人口を抱える利根川上流のダム群が有する治水・利水機能やこれまで果たしてきた役割を整理するとともに、今後気候変動が進行する中でその機能が十分か、役割がどう変化するかについて、流域治水の視点も交えて、議論し提言します。

コーディネーター 鼎 信次郎 東京工業大学 教授

パネリスト

- 藤本 雄介 関東地方整備局 河川調査官
- 石橋 一恭 水資源機構下久保ダム管理所 所長
- 田野 弘明 水資源機構琵琶湖開発総合管理所 所長 (下久保ダム管理所 前所長)
- 川瀬 宏明 気象庁気象研究所 主任研究官
- 芳村 圭 東京大学 教授
- 吉田 武郎 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 上級研究員



開催風景 第2分科会

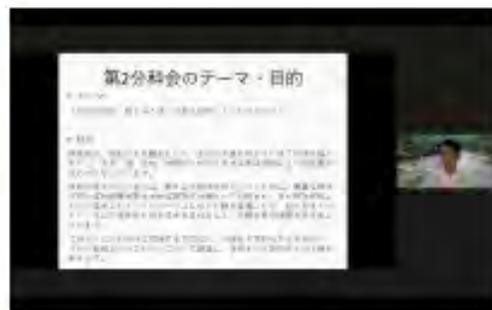
「水辺の自然、親しみと潤いのある空間、人とのつながり」

本県は、利根川を大動脈として、各河川が葉脈のように県下全域を張りめぐり、渓谷、滝、湿地、湖等の水が作り出す風景は地域により個性豊かなものになっています。

自然が残されている川は、豊かな人間性を育てていくために、貴重な環境学習や自然体験活動など地域間交流の場として利用され、また昨年完成した八ッ場ダムもインフラツーリズムなどの観光資源になり、新たなまちづくり、ダム下流住民との交流が生まれるなど、多種多様な価値を生み出しています。

このように人や地域に密接する大切な川。今後益々求められるであろう「水と地域とのつながり」について議論し、目指すべき方向性・向上策を考えます。

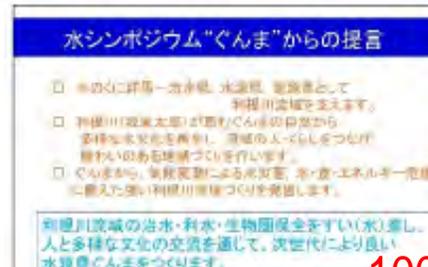
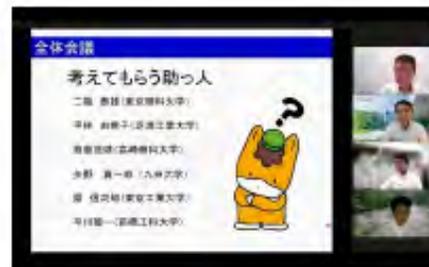
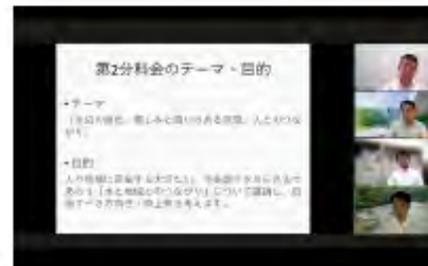
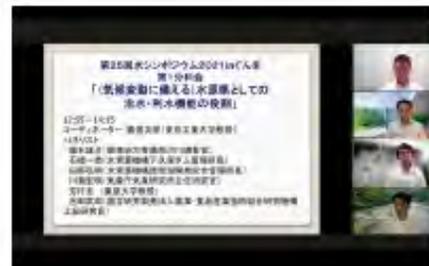
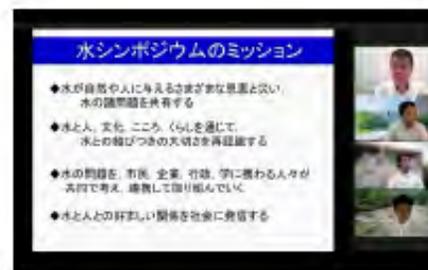
- コーディネーター 平川 隆一 前橋工科大学 准教授
 パネリスト 永野 博之 群馬工業高等専門学校 准教授
 掛川 優子 かな川水辺の楽校運営協議会 会長
 黒田 まり子 富士山集落活性化協議会 事務局長
 小沢 紀久男 上毛新聞社 編集局長



開催風景 全体会議

各分科会まとめとメッセージ発信

- コーディネーター 清水 義彦 第25回水シンポジウム2021inぐんま 実行委員会 委員長
 パネリスト 熊 信次郎 第1分科会コーディネーター
 平川 隆一 第2分科会コーディネーター
 コメンテーター 二瓶 泰雄 第25回水シンポジウム2021inぐんま 実行委員会 企画部会長



開催風景 次回開催県挨拶（山形県）



次回開催県挨拶

山形県県土整備部河川課 課長

工藤 哲 様

展示パネル紹介

- ① 8月26日(木) 9:30~17:15 シンポジウム休憩時間にWeb配信で公開
- ② 8月26日(木) 10:00 から当面の間、「第25回水シンポジウム2021inぐんま」ホームページにて公開



参加状況

事前申し込み:758人

YouTubeの最大同時接続数:502人

再生回数:2004回

2021 年度スケジュール (R3.12/8 現在)

資料 2102-6

	水工学委員会, 編集小委員会	部会, 小委員会	その他 (共催)
2021 年 4 月			
5 月	5/31 水工学論文集締切→延期		
6 月	6/8 第一回水工学委員会(O) 6/8 第一回編集小委員会(O) 6/30 水工学論文集締切	6/10-11 河川部会・河川シンポジウム 6/?? 河川観測小委員会・現地観測@ 北海道札内川	
7 月	7/6 第一回編集小委員会幹事会(O) 7/6 第二回編集小委員会(M)		
8 月	8/9 第三回編集小委員会(M) 8/26-27 水シンポジウム in 群馬 (執行部+水文部会)	8/18 河道管理小委員会座談会(O) 8/23 河川観測小委員会勉強会(O)	
9 月	9/3 第四回編集小委員会(M) 9/18-30 第二回編集小委員会幹事会	9/9 全国大会共通セッション・グロー カル小委員会(O)	
10 月			10/20-21 日中 土木学会シン ポ (O)
11 月			
12 月	12/8-10 第 66 回水工学講演会, アゲ ールシンポ (グローバル小委員会) 12/8 第二回水工学委員会	12/6-10 CommonMP 研修会	
2020 年 1 月		1/13 環境水理部会研究集会 (O)	
2 月		2/1 河川計画研修会・CMP コンソー シアム 2/9 河川災害シンポ (水害対策小委 員会) (H)	
3 月		3/16 基礎水理部会・基礎水理シンポジ ウム(O)	
4 月			
5 月	5/31 水工学論文集締切		

注：(M)メール審議, (O)オンライン開催, (H) ハイブリッド開催.

2022 年度スケジュール

6/16-17 河川シンポ (東大)

7/21-22 水シンポ in やまがた

9/5-6 夏期研修会 (東大)

11/23-25 第 67 回水工学講演会 (愛媛)

3rd JSCE- CCES JOINT SYMPOSIUM OF CIVIL ENGINEERING**OCTOBER 20-21, 2021, Tokyo, Japan****Program for Participants**

Hosted by

Japan Society of Civil Engineers

Chinese Civil Engineering Society



Preface

The 3rd JSCE-CCES Symposium is held online on October 20-21 2021, in Tokyo, Japan. It focuses on hydraulic engineering and coastal engineering in relation to sustainable development of infrastructure, and experts in those areas come together for exchange views and opinions, sharing their research findings and issues. We hope that this symposium will provide a platform and support them to network to build future collaboration and cooperation.

The 1st and 2nd JSCE-CCES joint symposiums was held in Tokyo, 2016 and Shanghai, 2018 respectively. The themes of these two symposiums were intelligent bridge and tunnel engineering; under the themes, participants discussed planning, design, innovative projects, operation, maintenance, renewal, and new materials.

Organizers

Hosted by

- (1) JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS (JSCE)
- (2) CHINA CIVIL ENGINEERING SOCIETY (CCES)

Organized by

- (1) JSCE
 - Coastal Engineering Committee
 - Committee on Hydrosience and Hydraulic Engineering
- (2) CCES
 - Tongji University
 - Hohai University

Committee

(1) Chairmen

Hitoshi Tanaka: Professor of Tohoku University, Senior Director of Center of International Activities, JSCE

Xianglin Gu: Vice chairman of CCES, professor and vice president of Tongji University

(2) Organization Committee

	First Name	Last Name	Affiliation	Note
Japan Side	<i>Shinichiro</i>	<i>Yano</i>	<i>Kyushu University</i>	<i>Chair</i>
	Feng	Zhang	Nagoya Institute of Technology	Advisor
	Toshikazu	Kitano	Nagoya Institute of Technology	Secretary
	Makoto	Umeda	Nihon University	Secretary
	Yasunori	Watanabe	Hokkaido University	Secretary
	Ji	Dang	Saitama University	Secretary
China Side	<i>Da</i>	<i>Chen</i>	<i>Hohai University</i>	<i>Chair</i>
	Xiongyao	Xie	Tongji University	Advisor
	Ning	Zhuang	Hohai University	Secretary
	Biao	Zhou	Tongji University	Secretary
	Yingdi	Liao	Hohai University	Secretary
	Chen	Xue	Tongji University	Secretary
	Lijun	Hou	Hohai University	Secretary
	Bo	Da	Hohai University	Secretary

TOPICS

1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
3. River and coastal sedimentary processes and their control measures
4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
6. Global problem due to the climate change
7. Remote sensing/Laboratory and field measurement techniques
8. Coastal zone management and planning
9. Coastal fishery problems and resource management
10. Miscellaneous water-related problems

Program-AT-A-Glance

October 20-22, 2021, ZOOM

	CST	JST	Room1 (Main Venue)	Room2
Oct 20	8:00	9:00	Opening Ceremony	
	8:15	9:15	Keynote 1	
	8:55	9:55	Keynote 2	
	9:35	10:35	Coffee Break	
	9:45	10:45	Session 1	Session 2
	11:15	12:15	Lunch Time	
	12:15	13:15		Session 3
	13:45	14:45	coffee break	
	13:55	14:55	Session 4	Session 5
	15:10	16:10	Coffee Break	
	15:20	16:20	Special Session	
	17:00	18:00	-	
	Oct 21	8:00	9:00	Keynote 3
8:40		9:40	Keynote 4	
9:20		10:20	Coffee Break	
9:30		10:30	Session 6	Session 7
11:00		12:00	Closing Ceremony	
11:10		12:10	-	

ZOOM Information

(Please check the participation guidelines)

*The Zoom Room URLs are the same on Day one and Day two.

【Room1】

URL:

<https://us06web.zoom.us/j/86934147840?pwd=S3k4Ukg4TkJlV3kyUktPdVdZdUplQT09>

Meeting ID: 869 3414 7840

Passcode: 219054

【Room2】

URL:

<https://us06web.zoom.us/j/81817604072?pwd=MlFESi9aUUUwRnJ2eWV5ZEZaTzlaZz09>

Meeting ID: 818 1760 4072

Passcode: 961995

CONTACT

Prof. Feng ZHANG, (+81) 90 8737 2953

Prof. Toshikazu KITANO, (+81) 52 735 5498

Dr. Ji DANG, (+81) 90 9126 9952

Dr. Ning ZHUANG (+86) 137 0518 9857

Room	Chair	Sessio Name	No.	CST	JST	Speaker Name	Affiliation	Title of paper	Key words	Topics
Day One (October 20th, 2021)										
Opening Ceremony (Room1)	Hitoshi Tanaka			8:00-8:15	9:00-9:15	Tamon Ueda	Hokkaido University, Shenzhen University, JSCE	Opening Address JSCE side		
						Xianglin Gu	Tongji University, CCSE	Opening Address CCSE side		
						Hitoshi Tanaka	Tohoku University, JSCE	JSCE IAC and Conference Announcement		
Keynote (Room1)	Yasuto Tachikawa	Hydro Engineering Keynote	1	8:15-8:55	9:15-9:55	Shinjiro Kanae	Tokyo Institute of Technology	Toward next-generation global/regional terrestrial water cycle and water resources modelling under climate change	global hydrological modeling, climate change	6. Global problem due to the climate change
			2	8:55-9:35	9:55-10:35	Feng Jin	Tsinghua University	Recent advances on rock-filled concrete dams	dam, rock-filled	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
				9:35-9:45	10:35-10:45	Coffee Break				
session 1 (Room1)	Shinichiro Yano	Hydro Engineering 1 (River)	1	9:45-10:00	10:45-11:00	Norio Tanaka	Saitama University	Backwater rise and current around patchy type vegetation after trapping debris at a flood event	additional resistance, overflow from levee, debris trapping type	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			2	10:00-10:15	11:00-11:15	Duoyin Wang	Chongqing Jiaotong University	Study on Damage and Energy Dissipation Mechanism of Steel-concrete Composite Interface of High Piled Wharf in Inland River	High piled wharf of inland river, rock-embedded pile, composite structure, interface damage, energy dissipation	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			3	10:15-10:30	11:15-11:30	Michio Sanjou	Kyoto University	Development of portable USV automatically measures flow velocities in turbulent rivers	field velocity measurement, river, autonomous control	7. Remote sensing/Laboratory and field measurement techniques
			4	10:30-10:45	11:30-11:45	Min Gao	Yangtze Estuary Waterway Administration Bureau	New progress on the research of waterway regulation in the yangtze estuary	The Yangtze Estuary, Deep-draft Waterway, Research, Progress	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			5	10:45-11:00	11:45-12:00	Yasuo Nihei	Tokyo University of Science	Microplastic pollution in the Japanese rivers	microplastics, macroplastics, pollution, river	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
session 2 (Room2)	Yasunori Watanabe	Coastal Engineering 1(Modelling)	1	9:45-10:00	10:45-11:00	Keiko Udo	Tohoku University	Development of economic evaluation framework for adaptation to future beach loss	beach loss, sea level rise, storm surge, cost benefit analysis	8. Coastal zone management and planning
			2	10:00-10:15	11:00-11:15	Zajin You	Dalian Maritime University	Long-term field measurements of erosive beach profiles on the coast of shandong, china		
			3	10:15-10:30	11:15-11:30	Yoshimitsu Tajima	The University of Tokyo	Challenges for modeling of morphology change of coral gravel beach	coral beach, swash zone, surf zone, morphology change, bedload transport	3. River and coastal sedimentary processes and their control measures
			4	10:30-10:45	11:30-11:45	Haijiang Liu	Zhejiang University	Frictional swash hydrodynamics under the improved seaward boundary condition	Swash hydrodynamics; Seaward boundary condition; Bottom friction; Method of characteristics ; Flow acceleration	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides,
			5	10:45-11:00	11:45-12:00	Yusuke Uchiyama	Kobe University	Marine environmental assessments in Japan based on a multi-nested 3-D circulation model	coastal ocean, Lagrangian/Eulerian transports, downscaling ocean model, ROMS, nesting, eddies	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
			6	11:00-11:15	12:00-12:15	Chunning Ji	Tianjin University	Numerical simulation of fluid-structure interaction between flexible vegetation and open channel flow	flexible vegetation, fluid-solid interaction, large eddy simulation, immersed boundary method, vector form intrinsic finite-element method	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)

Room	Chair	Sessio Name	No.	CST	JST	Speaker Name	Affiliation	Title of paper	Key words	Topics
				11:15-12:15	12:15-13:15	Lunch				
session 3 (Room2)	Yuxiang Ma	Coastal Engineering 2 (Coastal Environment, etc.)	1	12:15-12:30	13:15-13:30	Dezhi Ning	Dalian University of Technology	Hydrodynamic investigation on the bragg-resonance performance induced by periodic submerged bars	Bragg Resonance, Hydrodynamic Performance, Numerical Simulation, Wave Nonlinearity	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			2	12:30-12:45	13:30-13:45	Nobuhito Mori	Kyoto University	Impact assessment of climate change on coastal hazards in East Asia	climate change, coastal hazards, typhoon	6. Global problem due to the climate change
			3	12:45-13:00	13:45-14:00	Xiaojing Niu	Tsinghua University	Probabilistic tsunami hazard assessment for southern coastal areas of China	Tsunami, Hazard assessment, Probability model, large-scale computing	
			4	13:00-13:15	14:00-14:15	Eiji Harada	Kyoto University	Computational study of ripple formation process in oscillating boundary layer	ripple, distinct element method (DEM), moving-particle semi-implicit (MPS) method, pore water	3. River and coastal sedimentary processes and their control measures
			5	13:15-13:30	14:15-14:30	Jun Zhang	CCCC-FHDI Engineering Co., Ltd	Introduction of Layout Consideration, Water Exchange and Beaches Evolution in Port City Project in Colombo, Sri Lanka	Port City, low-crest breakwater, water exchange, shoreline evolution, sediment	2. River and coastal hydrodynamics
			6	13:30-13:45	14:30-14:45	Koji Kawasaki	Hydro Technology Institute, Co., Ltd.	Flow filed simulation with solid-liquid-gas interaction	flow field simulation, solid-liquid-gas interaction numerical model	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
				13:45-13:55	14:45-14:55	Coffee Break				

Room	Chair	Sessio Name	No.	CST	JST	Speaker Name	Affiliation	Title of paper	Key words	Topics
session 4 (Room1)	Makoto Umeda	Hydro Engineering 3 (Hydrology)	1	13:55-14:10	14:55-15:10	Tetsu Oishi	Kobe University	Practical Application of Weather Radar Information in Japan	Weather Radar, Short term rainfall prediction, flood and inundation	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			2	14:10-14:25	15:10-15:25	Mingjin Zhang	Tianjin Research Institute for Water Transport Engineering	Effects of climate change on runoff characteristics and water depth resources of typical navigable stretch of the middle and lower reaches of the Yangtze River	climate change; runoff characteristics; channel conditions; Liyushan reach; the middle reaches of the Yangtze River	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			3	14:25-14:40	15:25-15:40	Kenji Tanaka	Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University	Long Term Projection of Water Resources Over Japan With Super-High Resolution Climate Model and Landuse Scenario	climate change effect on hydrological cycle	6. Global problem due to the climate change
			4	14:40-14:55	15:40-15:55	Liqin Zuo	Nanjing Hydraulic Research Institute	Effects of sediment discharge dispatch of the Three Gorges Reservoir during flood season	Sediment, Flood season	3. River and coastal sedimentary processes and their control measures
			5	14:55-15:10	15:55-16:10	Yasuyuki Maruya	Kyushu University	Climate change impact assessment on the dam control during an extreme event	climate change effect on dam control	
session 5 (Room2)	Toshikazu Kitano	Coastal Engineering 3 (Coastal Structure & etc.)	1	13:55-14:10	14:55-15:10	Taro Arikawa (co-author: Yasuo Kotake)	Chuo University	Theory and application of hydraulic model experiments - wave-seabed interaction-	Similarity parameter, Physical experiment, waves, foundation	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			2	14:10-14:25	15:10-15:25	Yuxiang Ma	Dalian University of Technology	Assessment of bearing capacity of a large diameter pile foundation under extreme breaking waves	Breaking wave, Monopile, Wave-pile-soil interaction, Bearing capacity	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			3	14:25-14:40	15:25-15:40	Susumu Araki	Osaka University	Hydraulic Performance of Rubble Mound Structure	Rubble Mound	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			4	14:40-14:55	15:40-15:55	Yunfei Guan	Nanjing Hydraulic Research Institute	Research and Application of Bucket Foundation Breakwater	Bucket foundation breakwater, Earth pressure, Thick muddy soils, Experimental studies	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			5	14:55-15:10	15:55-16:10	Puyang Zhang	Tianjin University	Structure and installation of bucket foundation for offshore wind turbines in China	Offshore wind; Bucket foundation; structure design; Suction installation	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
				15:10-15:20	16:10-16:20	Coffee Break				

Room	Chair	Sessio Name	No.	CST	JST	Speaker Name	Affiliation	Title of paper	Key words	Topics
special session (Room1)	Hitoshi Tanaka	Disaster Mitigation (Recent Flood Disaster in Japan, China, Europe and US)						Introduction		
			1	15:20-17:00	16:20-18:00	April J. Lander	ASCE New Zealand Group	Hurricane Ida extreme weather and flooding in the United States and disaster risk mitigation measures	Hurricane Ida, extreme weather, flooding in the United States, risk mitigation	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			2			Tomohito Yamada	Hokkaido University	Overview of the 2021 European floods and flood risk assessment associated with climate change	Flood in Germany (and Netherland?), 2021	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			3			Fang Yang	Pearl River Water Resource Commission	Rainstorms and flood disasters in high-density city and resilient defense system development	fluvial flooding, hazard, resilient infrastructure, urban area	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			4			Zeping Xu	China Institute of Water Resources and hydropower Research	Challenges & measures of dam safety management upon climate change scenario	Climate change, Dam safety, Integrated management, Resilience	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			5			Takahiro Sayama	Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University	Development of a high-resolution nationwide distributed flood forecasting system in Japan	Flood forecasting, Realtime, RRI Model, Hydrology, Flood disaster	1. Disaster risk reduction in/around rivers and coastal areas
			6			Yasuto Tachikawa	Kyoto University	Advanced water hazard prediction technology against super-class typhoons	flood control in Japan	

Room	Chair	Sessio Name	No.	CST	JST	Speaker Name	Affiliation	Title of paper	Key words	Topics
Day Two (October 21st, 2021)										
Keynote (Room1)	Feng Zhang	Costal Engineering Keynote	3	8:00-8:40	9:00-9:40	Jinhai Zheng	Hohai University	Transverse oscillations in harbors with varied water depth	harbor resonance, transverse oscillations, analytical solution, Boussinesq wave model	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			4	8:40-9:20	9:40-10:20	Jun Sasaki	The University of Tokyo	Estuarine environmental processes and management from the past toward the future	water and sediment quality, hypoxia, fishery, environmental restoration, blue carbon	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
				9:20-9:30	10:20-10:30	Coffee Break				
session 6 (Room1)	Haijiang Liu	Hydro Engineering 4 (Enviroment)	1	9:45-10:00	10:45-11:00	Xiaoteng Shen	Hohai University	Aggregation of biofilm-covered suspended particulate matter in estuarines and coastal waters	microplastics, Aggregation, biofilm-covered suspended particulate matter, estuarines and coastal water	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
			2	10:00-10:15	11:00-11:15	Hitoshi Miyamoto	Shibaura Institute of Technology	Long-term trends in equilibrium water temperature under climate change in Japan	equilibrium water temperature, trend analysis, seasonality, Mann-Kendall Test, warming and cooling trends, Japan	5. River and coastal environmental problems (vegetation, mangrove and living breakwater, etc.)
			3	10:15-10:30	11:15-11:30	Yingdi Liao	Hohai University	Exploration of the Yangtze River Shoreline Protection and Utilization Evaluation		2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			4	10:30-10:45	11:30-11:45	Keisuke Nakayama	Kobe University	Internal waves and mass transport	soliton; breather; layer fluid; stratification; pycnocline	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
session 7 (Room2)	Chunning Ji	Coastal Engineering 4 (Coastal Engineering)	1	9:30-9:45	10:30-10:45	Jing Geng	Harbin Engineering University	Hydrodynamic analysis, design method and prospective applications of the multi-purpose coastal structures	Hydrodynamic analysis, design method and prospective applications of the multi-purpose coastal structures	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
			2	9:45-10:00	10:45-11:00	Masaru Yamashiro	Kyushu University	Experimental Study on Effects of Wind on Wave Overtopping	Wave overtopping, Model experiment, Wind	7. Remote sensing/Laboratory and field measure
			3	10:00-10:15	11:00-11:15	Xiao Liu	Ocean University of China	Analysis of water wave overtopping above perforated caissons	perforated caisson; wave overtopping; mean overtopping discharge; numerical simulation; experimental test	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			4	10:15-10:30	11:15-11:30	Yasunori Watanabe	Hokkaido University, School of Engineering	Dynamics of breaking waves	breaking waves, vortices, turbulence, free surface	2. River and coastal hydrodynamics (turbulence, currents, waves, tides, tsunami etc.)
			5	10:30-10:45	11:30-11:45	Zhan Hu	Sun Yat-Sen University	Laboratory study on wave propagation through vegetation with following and opposing currents	Wave dissipation by vegetation, wave and currents flow, drag coefficient, analytical model	
			6	10:45-11:00	11:45-12:00	Toshikazu KITANO	Nagoya Institute of Technology	Revisited Return Period and Joint Occurrence of Sea Extremes	Return period, Dependence, Correlation, Storm surge	4. Design and investigation of river, coastal and harbor structures
Close Ceremony (Room1)	Da Chen	Close Ceremony		11:00-11:10	12:00-12:10	Da Chen	Hohai University	Closing Address CCES		

**3rd JSCE- CCES JOINT SYMPOSIUM OF CIVIL ENGINEERING
OCTOBER 20-21, 2021, Tokyo, Japan**

Guidelines and ZOOM Meeting Manual



Hosted by
Japan Society of Civil Engineers
Chinese Civil Engineering Society



1. OVERVIEW

The 3rd JSCE-CCES Symposium is held on October 20-21, 2021, online (ZOOM) with a live-presentations. To presenters, please check the session in which you will present on the detailed timetable.

	CST	JST	Room1 (Main Venue)	Room2
Oct 20	8:00	9:00	Opening Ceremony	
	8:15	9:15	Keynote 1	
	8:55	9:55	Keynote 2	
	9:35	10:35	Coffee Break	
	9:45	10:45	Session 1	Session 2
	11:15	12:15	Lunch Time	
	12:15	13:15		Session 3
	13:45	14:45	coffee break	
	13:55	14:55	Session 4	Session 5
	15:10	16:10	Coffee Break	
	15:20	16:20	Special Session	
	17:00	18:00	-	
	Oct 21	8:00	9:00	Keynote 3
8:40		9:40	Keynote 4	
9:20		10:20	Coffee Break	
9:30		10:30	Session 6	Session 7
11:00		12:00	Closing Ceremony	
11:10		12:10	-	

ZOOM INFORMATION

*The ZOOM Room URLs will be the same on Day One and Day Two.

【Room1】

URL:

<https://us06web.zoom.us/j/86934147840?pwd=S3k4Ukg4TkJlV3kyUktPdVdZdUplQT09>

Meeting ID: 869 3414 7840

Passcode: 219054

【Room2】

URL:

<https://us06web.zoom.us/j/81817604072?pwd=MlFESi9aUUUqRnJ2eWV5ZEZaTzladz09>

Meeting ID: 818 1760 4072

Passcode: 961995

For All Participants:

2. GENERAL PARTICIPATION IN THE ZOOM

(1) Prepare the ZOOM environment:

ZOOM on PC or Mac

⇒ Please prepare your PC/Mac with the latest version of the ZOOM application.

https://zoom.us/download#client_4meeting

Download from China: <http://zoomus.cn/download>

ZOOM environment check

⇒ Please test your internet connection and audio/video environment via the ZOOM test web site: <https://zoom.us/test>

(2) Set your ZOOM display name:

Presenters:

"[Presenter] *Title Full Name_Affiliation*"

Session-chair:

"[Chair] *Title Full Name_Affiliation*"

Other participants:

"*Title Full Name_Affiliation*"

- (3) Participants, except the chair and the presenters, should turn off their cameras and mute microphones during the presentation.
- (4) Use the "**raise hand**" function on ZOOM to make comments and questions. Once a chair calls your name you may turn on your camera and microphone to ask a question.
- (5) Do not record or take screenshots of presentations. Posting captured images and/or recorded presentations on SNS or other websites is prohibited.
- (6) Agenda/ schedule may be subject to change
- (7) All session will be recorded for the purpose of future PR.

For Session Presenters:

3. PRESENTATION SLIDES

- (1) Create your presentation slides using PowerPoint or alternative software.
- (2) The standard slide size is "4:3" or "16:9".
- (3) You may use animation effects and videos in your slides. Please test them in advance and confirm that these slides run smoothly. If you plan to play videos with sound, please make sure you check the share-sound function when you start sharing your desktop.
- (4) Please make sure that you have the copyright of, or the right to present, texts, figures, tables, or images you use in your slides, and present with quotations/citations when necessary. Presenters must assume full and sole responsibility for any of their contents of presentations and obtaining the rights and interests of third parties.

4. PRESENTERS

4.1. Preparation before your session

- (1) Enter ZOOM meeting room **5 minutes before** your session starts.
- (2) Change your display name.
- (3) Keep turn off your microphone (mute) **except when your chair asks** you to turn it on.
- (4) Open your presentation slides on your desktop and stay ready for your presentation. As a backup plan, you may prepare a PDF version of your slides.

4.2. Presentation

- (1) Follow your chair's instruction to start your presentation: turn on your microphone and camera, share your screen, and begin your presentation.
- (2) The time allocated for each presentation is **15 minutes (10 minutes for the presentation + 5 minutes for Q&A session)**.
- (3) The time allocated for each presentation given in Special Session is **10 minutes**.
- (4) Time will be shown in the ZOOM room by our staff. You are responsible for keeping your presentation time. Your presentation and Q&A may be stopped by the chairperson when your time is up. Remind alarm will be sounded in 9, 10, 15 minutes of your presentation to help you control your time.
- (5) During a Q&A session, the chair calls the name of person who is raising a hand using the "raise a hand" function. Please keep your presentation shared on the screen while you answer questions.

4.3. End of Your Presentation

After the Q&A session, the chair will ask you to stop sharing your screen and turn off the microphone and camera. Please follow the chair's instructions.

For Session Chairs:

5. HOW TO CHAIR A SESSION

- (1) Enter ZOOM meeting room **5 minutes before** your session starts.
- (2) Check the List of Presenters before Your Session Starts:
 - Please check the attendance of the presenters before your session starts.
 - Also ask everyone to change their names just before your session starts.
- (3) Announcement at the beginning:
 - The time allocated for each presenter is 15 minutes: 10 minutes for the presentation + 5 minutes for Q&A session.
 - Participants except the chair and the presenters should turn off their cameras and mute microphones during the presentation.
 - After presentation, ask the audience to use the "raise hand" function on ZOOM to make comments and/or questions. You can name a questioner from who "raised hand" or ask the presenter a question by yourself.
 - Timer will be shown on screen, as one of the participants. The room host will control the timer. Bell will ring in 9, 10 and 15 minutes after a presentation starts. You will be informed the remaining time by the timekeeper. Please ask the presenter to summarize their presentation.
 - Do not record or take a screenshot of presentations. Posting captured images, recorded movies of the presentation on SNS or other websites is prohibited.
- (4) You may conclude the session after all presentations are done, or you can ask for discussion if there are more questions.

来年度に向けた変更

- 投稿・査読システム Editorial Managerの導入
(3月中に試行)
- 投稿規定の見直し

(キーワード見直しの課題だけでなく、2023年度から土木学会論文集に従う必要があるためできるだけ2022年に準備。

投稿者は講演者ではなくCorresponding Author。(学会員の義務付けは外れる。) 一人一講演は義務付け、別途チェック予定

英語論文は土木学会論文集の英文論文集に掲載される。

(投稿費の取り扱い) ページ付け等はどうか不明であり、これらは次期執行部の検討課題として残りそう。

2022年度投稿に向けた準備

- 3月末にはEditorial Managerの投稿システムの準備完了予定.
- 投稿キーワード，編集体制の見直しを12月中アンケート，1，2月に実施し，3月の編集委員会にかける
- 1，2月でその他投稿規定の変更内容を検討，3月の臨時委員会で承認をお願いする.

0. 水工学論文集編集作業について(会議予定)

開催日	会議	会場
2022年5月1日(日)	論文投稿受付開始	
2022年5月31日(火)	論文投稿受付締切	
2022年6月6日(月)	第一回水工学委員会	ZOOM
2022年6月7日(火)	第一回編集小委員会幹事会 第二回編集小委員会(第三査読者決定)	ZOOM メール
2022年7月11日(月)	第1回査読期限	
2022年7月22日(金)	第三回編集小委員会(メール審議)	
2022年8月12日(金)	修正原稿締切	
2022年8月22日(月)	第四回編集小委員会(メール審議)	
2022年8月31日(水)	最終原稿締切	
2022年9月1日(木)～9月9日(金)	最終原稿確認	
2022年9月9日(金) ～19日(月)	校正作業(業者委託) → プログラム作成 9月26日(月)まで	
2022年11月23日(水)	第二回水工学委員会(@講演会)	愛媛

第57回 水工学に関する夏期研修会 開催案

担当：関東地区（海岸工学委員会）

幹事：下園先生（東大/海岸），小田（千葉工大/水工）

二瓶先生（理科大）にサポートいただいています

- 日程：2022年9月5日（月），6日（火）
- 会場：東京大学本郷キャンパス
- 定員：各コース 150名（対面実施の場合）
ハイブリッド形式 or 全面オンライン形式での開催を検討中
- 構成：初日に 共通講義を2コマ設定（水工・海岸で1コマずつ）
その後，A/Bコース別のテーマ（6コマずつ）

検討している事項

- 開催形態（対面，オンライン，ハイブリッド）
- 講義集の配布形態（電子化）
- 参加費の設定

Aコース講義 (仮) 激甚化する豪雨災害と複合災害への備え

【1日目(共通セッション)】

- 大石哲教授(神戸大/理研): 富岳を用いた複合災害の被害推定(水工)
- 加藤史訓様(国総研): 今後の海岸工学の課題について(海岸)

【1日目(2コマ)】

- 芳村圭教授(東大): Today's Earth -- 豪雨予測: 水災害の監視に係る最新の研究成果
- 朝田将様(国交省): 流域治水を含む今後の河川計画のあり方などについて

【2日目(4コマ)】

- 中林一樹名誉教授(都立大): 複合災害全般
- 二瓶泰雄教授(理科大): 豪雨と地震
- 竹林洋史准教授(京大): 豪雨や地震を起因とする土砂災害
- 牛山素行教授(静岡大): 洪水・土砂災害時の避難について

Bコース講義 (仮) 波・流れと地盤の相互作用

※水理模型実験における地盤材料の取扱方法に関する研究小委員会のメンバーで構成

- 鈴木高二郎様(港空研): 流体と地盤の複合場概論
- 松田達也様(豊橋技大): 模型実験(水理/地盤)
- 高橋英紀様(港空研): 相似則(水理/地盤)
- 中村友昭様(名大): 数値解析(格子法)
- 藤澤和謙様(京大): 数値解析(遷移領域)
- 原田英治様(京大): 数値解析(粒子法)

準備委員会

2020年3月23日 山形市あこや会館

山形県河川課: 竹内課長, 鈴木課長補佐, 楠主査
山形河川国道: 高橋副所長, 栗田係長
最上川フォーラム: 柴田
土木学会: 清水委員長, 二瓶幹事長, 風間

2020年11月25日 山形自治会館

山形県河川課: 竹内課長, 鈴木課長補佐, 楠主査
山形河川国道: 高橋副所長, 栗田係長
最上川フォーラム: 柴田, 土木学会: 風間

2021年6月2日 山形河川国道事務所

山形県河川課: 高橋課長補佐, 我妻主査
山形河川国道: 小出副所長, 小田桐係長
最上川フォーラム: 柴田, 斎藤, 安部, 土木学会: 風間

2021年10月1日 山形河川国道事務所

山形県河川課: 高橋課長補佐, 我妻主査
山形河川国道: 小田桐係長
最上川フォーラム: 柴田, 斎藤, 安部,
土木学会: 立川, 矢野, 風間

実行委員会立ち上げ 書面

2021年10月15日 メール審議

実行委員会規約
実行委員会名簿
日程・会場
準備スケジュール

を承認

水シンポジウム山形2022

別表1 実行委員会 (◎実行委員長)

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	立川 康人	京都大学
	土木学会水工学委員会	幹事長	矢野 真一郎※1	九州大学
	土木学会水工学委員会	委員	風間 聡※1	東北大学
	東北地方整備局河川部	部長	國友 優	
	東北地方整備局山形河川国道事務所	所長	橋本 裕樹	
	東北地方整備局酒田河川国道事務所	所長	高野 明	
	東北地方整備局新庄河川事務所	所長	吉柳 岳志	
	山形県県土整備部	部長	前内 永敏	
	山形市都市整備部	部長	伊藤 林也	
	美しい山形最上川フォーラム	会長	柴田 洋雄	

企画部会(※1)

矢野幹事長, 諏訪河川部会長, 風間, 川越(福島大学), 梅田(日大)
渡部徹(山形大学)他

水シンポジウム山形2022

事務局：山形県河川課 会計：最上川フォーラム

会場：テルサホール(山形駅前)

日時：令和3年7月21日木曜, 22日金曜
21日シンポ, 22日現地見学会

担当部会：河川部会(第一分科会)

今後の予定

2022年1月11日 第二回実行委員会・企画部会

テーマ, 分科会の方向性(治水と文化?)を決定

年始～年度末まで 助成申請, 助成依頼

4月まで 2回の分科会 1回の実行委員会を予定

- 2023年11月～12月実施



大阪大学コンベンションセンター

- 会場が大きく，安い
- ×付近のホテルがかなり少ない。
→大阪キタや京都駅前から通う（1時間）
- ×会場が5会場のみで，別会場の予約が必要。
- ×ハイブリッド開催に金額面の不安あり
- 12/10（日）～12/14（木）予約済み

- 吹田キャンパス（工医歯薬）
新大阪駅から 地下鉄とモノレール約45分
伊丹空港から モノレール約35分
- 500人1室，120人3室，96人1室
計5会場
- 1日17万円



大阪大学中之島センター

- 大阪市内・中之島に所在，目の前は土佐堀川
2023年4月再開に向けて改修中
- 施設は最新
- ×予約がいつ始まるか分からない
- ×レイアウト未決定
- 海岸工学講演会実施実績あり
- 徒歩圏内ホテル多数

- 1講義室1日5万円以上10万円以下程度？

2023年水工学講演会

- 学外会場



大阪府立国際会議場

- 大阪市内・中之島に所在，目の前は土佐堀川
 - 会場の雰囲気は別格
 - ◎ホワイエ・設備の面で運営のしやすさ
 - 徒歩圏内ホテル多数
- 3日間，会場，委員会会議室，設備費用込みで見積 400万円



グランフロント大阪

- ◎大阪駅直結
 - ワンフロア借り切りで運営のしやすさ
 - 近隣ホテル多数
 - △部屋が若干狭め
- 3日間 通常会場+控室+設備費用 340万円
大会場別途



2023年水工学講演会

Minoh Campus
箕面キャンパス

大阪大学コンベンションセンター

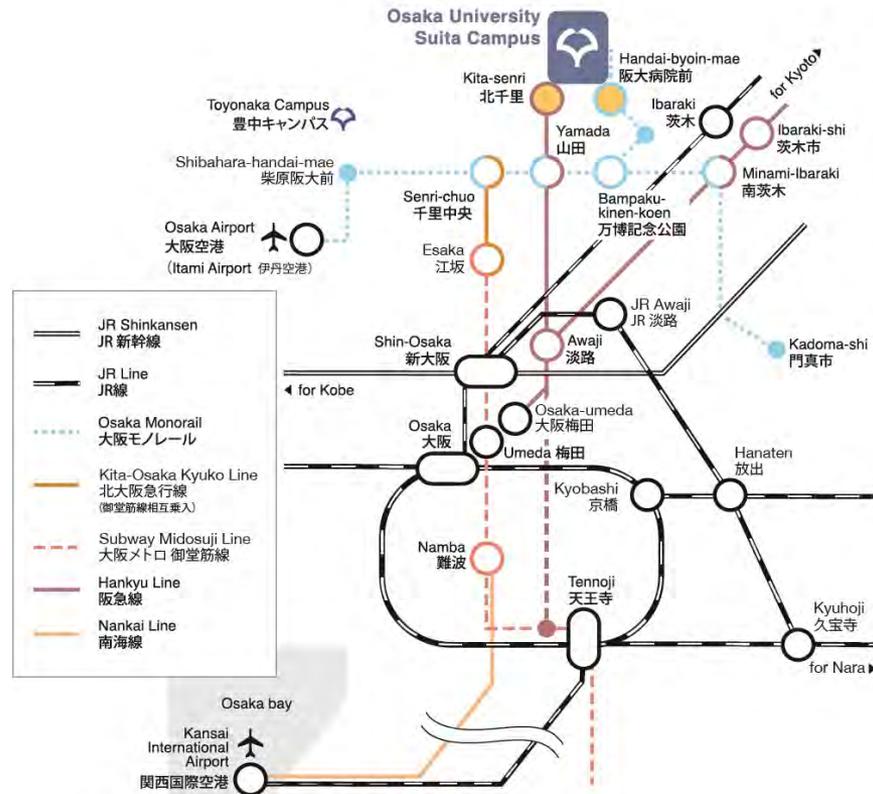
第1会場 (500名)



第2会場 (96名)



第3～第5会場 (120名)



医学研究科銀杏会館 (徒歩5分)
2022年4月予約開始



工学研究科キャンパス (徒歩5分) 131

R3収入

	2021
調査研究費	¥934,000
拡充支援金	¥5,867,000
合計	¥6,801,000

R3支出(11月末まで)

ZoomとGoogleアカウント： 約44,000円
 水工学オンライン連続講演会謝金： 約50,000円
 水シンポ謝金： 約18,000円
 その他（発送費など）：

小計： 約120,000円

R3支出(今後の見込み)

Editorial Manager導入初期費用： 660,000円
 水シンポ協賛金： 500,000円
 水シンポ旅費など： 200,000円程度

小計： 約1,360,000円

部会・小委員会へのお願い：

今年度中の支出希望が有りましたら早めに矢野までご連絡ください。

特に、10万円以上の支出は2月までしかできませんので、よろしくお願いいたします。

※備品は購入できません！